

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

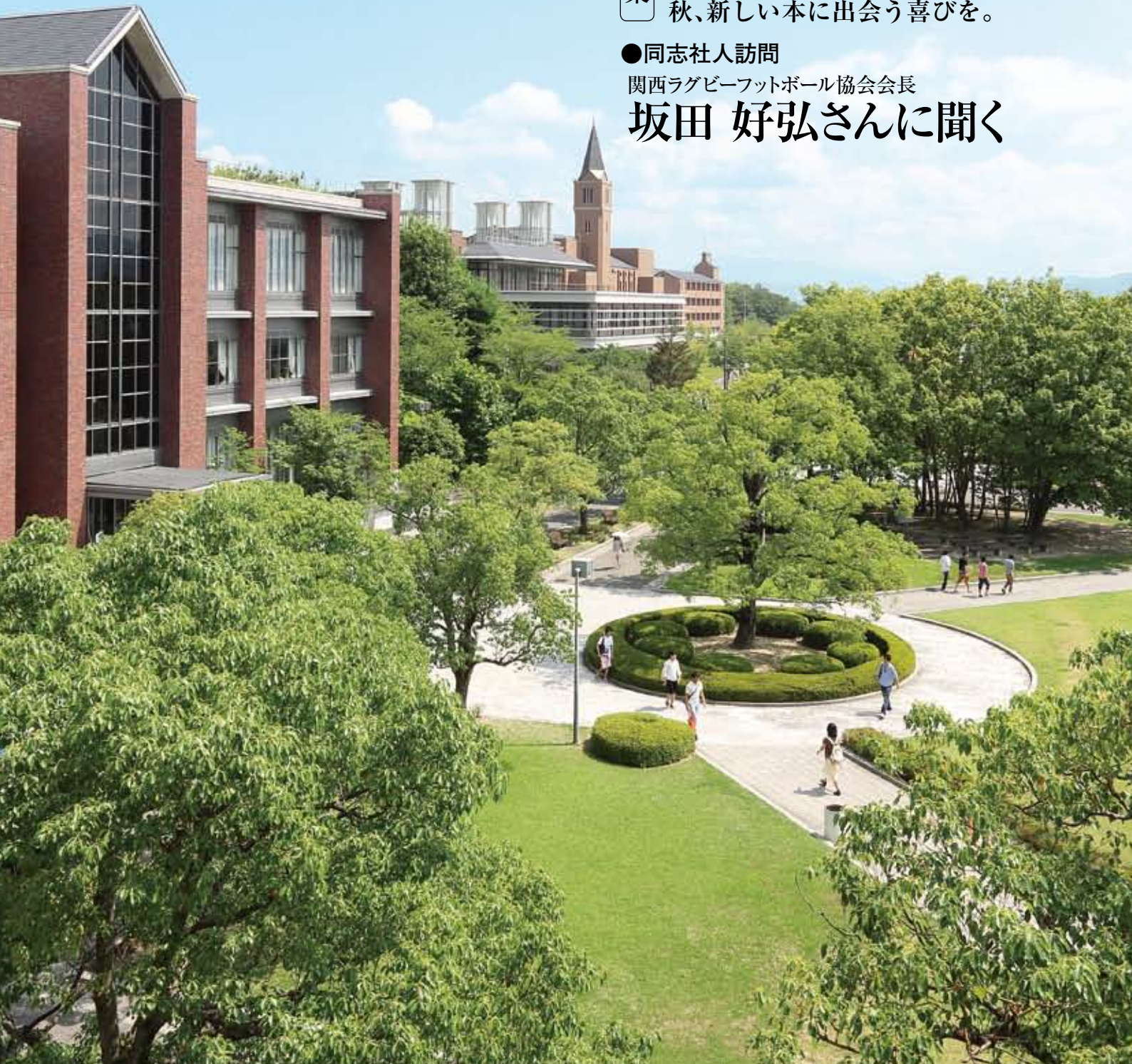
若者よ、書に還れ

秋、新しい本に出会う喜びを。

●同志社人訪問

関西ラグビーフットボール協会会長

坂田 好弘さんに聞く



若者よ、書に還れ

秋、新しい本に出会う喜びを。

「大学時代にもっと本を読んでおけばよかった」 社会人になった先輩たちから、そんな声を聞くことが多い。

二度と戻れない4年間、その貴重な時間に本と触れ合うことの大切さに、通り過ぎてから気づく。

自由に使える時間の多いこの時期だからこそ、未知なる本の世界にじっくり、ゆったり、浸ってみよう。

読書には2通りあります。1つは自分の研究の参考資料として、あるいは読むべきものとして指示されて読む場合。もう1つはそういう決まった目的がなく、ただ自分の楽しみのために読む場合。学生みなさんの普段の読み方は、前者の目的を持って調べたりする読み方がほとんどだと思います。しかしそれは、電話帳を見て電話番号を調べることと変わりがなく、読み終わった後に知識としては残るかもしれませんが、読むという行為自体に楽しみ、喜びはありません。より大事なことは無目的に読む後者のほうではないかと、私は思います。調べる目的で

本当の本との出会いとは

読むにしても、調べる対象の周りに広がっているものに関心を持っていただきたい。本を読むことから得られるものは、その一冊だけではなく、広がり、向こう側に見えてくるものなのです。図書館に来れば、書架に並んだ本の中から、探しに来た以外の本が語りかけてきます。目的を持って本を探すことはもちろん大事ですが、たまたまそこにあった本を手にとってみる、それが本当の本との出会いの第一歩だと思うのです。

図書館の歩き方

学生みなさんが図書館に来てまずしてほしいのは、まず館内をゆっくり一周してみることです。普段は特定の棚しか見ないということ

が多いと思いますが、そこで新たな思いがけない出会いがあるはず。そうしてまた出会って読んでみた本について、その時は自分の中に何が残ったのかわからなくても、何かの機会にその本の中にあつた言葉が自然に出てくる、自分の考え方の基盤のようなものが知らず知らずのうちに生まれてくる、それが読書というものが持っている本当の楽しさや面白さではないかと思っています。これから自分はどういうふうに生きていけばいいのか、悩んだ時に本は一番身近でヒントをくれます。決まった目的のない漠然とした時間の中で、効率からこぼれ落ちたものの大切さを教えてくれる場所が図書館だと思っています。

柿本 昭人
【図書館長】

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

若者よ、書に還れ

秋、新しい本に出会う喜びを。



ゼミ探訪 学びの時間

文化情報学部 川崎 廣吉 ゼミ

同志社の研究は今

国際ビジネス法務研究センター(RECITAL) 高杉 直 法学部教授 吉川 英一郎 商学部教授

2012年度 大学決算について

CAMPUS NEWS

「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭を開催／第42回 Neesima Room企画展 シンポジウム『会津と八重―八重を育てた故郷を語る』／ドナルド・キーン氏に「名誉文化博士」学位贈呈／GRM グローバル・リーダーシップ・フォーラム開催／日米欧国際シンポジウム「グローバル社会と京都」を開催／オープンキャンパス2013開催／本学留学生が祇園祭に参加／晩夕寮で火災訓練を実施／チャペル・コンサートを開催／2013年度 卒業式・学位授与式／2014年度入学式／新任教員紹介／大河ドラマ『八重の桜』に出演の本学卒業生サイン色紙プレゼント／本学教員の執筆図書紹介

留学生紹介

李 ダヘさん(心理学部)

INTERVIEW ～同志社人訪問～

関西ラグビーフットボール協会会長 坂田 好弘さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

・澤井 芳信さん(2003年 文学部社会学科産業関係学専攻卒業)
・井岡 紘子さん(2004年 法学部政治学科卒業)

ANNOUNCEMENT

MY PURPOSE

北京大学の中国語スピーチコンテストで第3位入賞～自分にチャンスときっかけをくれた中国に恩返しをしたい～
後藤 友莉さん(グローバル・コミュニケーション学部中国語コース3年次生)

表紙の情景 [館内閲覧室からラーネッド記念図書館前庭を臨む]



同志社大学には2つの図書館がある。同志社創立時から収集されてきた約66万冊におよぶ蔵書を持つ今出川図書館、そして第2代学長を務めたD.W.ラーネッドの名を冠する、京田辺校地のラーネッド記念図書館。その3階には文字通り、館内で最も静かな閲覧室「サイレンス」がある。パソコンはもちろん電卓など少しでも音の出るものは持ち込み禁止。書物や資料に集中するため、静寂の時間を求めてやってくる学生たちが真っ先に陣取るのが、前庭に面した窓際の席だ。大きなガラス越しには、図書館から正門へ向かう美しい風景を一望することができる。



「武器としての決断思考」

瀧本哲史著
星海社新書 820円＋税

正解にたどり着くことを目的とした高校までの勉強と違って、大学、とくに社会科学系では何が正解なのかかわからないものについて議論していくことが必要になります。ディベートはその手段ですが、ディベート的な考え方、経験は将来の人生において武器にもなります。賛否両論があるような場面に遭遇した時、最善解を導き出すためにどう思考すればいいのか、どう決断すればいいのか、非常に参考になる一冊です。続編の「武器としての交渉思考」も併せて読むことをおすすめします。

経済学部

北川 雅章
【経済学部長】



学部長がお勧めする

この秋に読んで欲しい本

商学部

志賀 理
【商学部長】



「弱くても勝てます
開成高校野球部のセオリー」

高橋秀実著
新潮社 1,300円＋税

週1回、土曜日しかグラウンドが使えない超進学校の開成高校野球部が勝つためにはどう行動するか。それは選手1人ひとりが当たり前のことを当たり前だと思わず、どうすればいいのかを考えること。教室でバドミントンのシャトルを投げて練習したり、グラウンドが使えない6日間、どうやって野球をするか、彼らは常に考えています。感動や友情といったストーリーはありますが、スポーツに限らずどんな場合でも自ら考え、自ら行動するという姿勢が大事だということを教えてくれます。

神学部

水谷 誠
【神学部長】



ナチスドイツから逃げてきたユダヤ難民の口から、命の恩人として必ず出てくる日本人が2人います。1人は、彼らに通過査証を発行した、リトアニアのカウナス領事代理であった杉原千畝。もう1人が、日本に到着した難民のために奔走した、本書の小辻節三です。小辻は京都の賀茂神社の神官をしていた家に生まれましたが、キリスト教会の牧師となり、後にユダヤ教に改宗して、今はエルサレムに眠る人物です。私たちに勇気と希望を与えてくれる好著です。



「命のビザを繋いだ男
小辻節三とユダヤ難民」

山田純大著
NHK出版 1,700円＋税

文学部

圓月 勝博
【文学部長】



「タイガーズ・ウィフ」

テア・オブレヒト著 藤井光訳
新潮クレスト・ブックス
2,200円＋税

本年度の本屋大賞の海外小説翻訳部門の1位を獲得しています。訳者の藤井光さんは本学英文科の教員。英語圏の小説の翻訳者として若手のエースです。テア・オブレヒトはセルビア生まれでアメリカ在住の作家。セルビアを舞台に、主人公が自分のアイデンティティを求め、家族の過去をさかのぼっていく物語ですが、「虎の妻になった女」が何を象徴しているのか、紛争の中の暴力や憎しみ、家族愛について感じることは1人ひとり違います。それこそが読書の喜びなのです。

社会学部

富田 安信
【社会学部長】



澤田さんは本学の文学部出身で、この本が小説家としてのデビュー作です。時代は天平、役人を養成する学校で勉強する若者たちが主人公。よき国をつくることに燃えている若者たちが政争に巻き込まれていく、波乱万丈の青春群像が描かれています。ハラハラドキドキさせる場面もあります。史実の隙間を小説家の想像力で埋めていく、小さな史実から豊かな物語を創造していく、これが歴史小説の醍醐味だと思います。秋の夜長、同志社の先輩が書いた本を手に取り、読書の楽しみを味わって下さい。



「孤鷹の天」

澤田瞳子著
徳間書店 2,000円＋税

法学部

神谷 遊
【法学部長】



「インターセックス」

常木蓬生著
集英社 1,900円＋税

取り上げられているのが、男性でも女性でもない、これまでの医学ではタブー視されて表には出てこなかった存在。主人公の女医には、アブノーマルの生存を否定するのではなく、男でも女でもない人もその人なりに生きていくことを認めるべきではないかという考えがあります。ナチュラライゼーションとでもいっていいでしょうか、その人がその人らしく生きていくことが大切なのではないかという問題提起をしており、法律を研究している者にとっても、新しい視点を与えられました。

政策学部

今川 晃
【政策学部長】



「失われた民主主義
メンバーシップからマネジメントへ」

シーダ・スコッチポル著
河田潤一訳
慶應義塾大学出版会 2,800円＋税

NPOの拡大やネットワーク化が進むにつれて、中心人物同士が結びついて専門化し組織をマネジメントしようとするため、草の根的な民主主義が失われていくことを、アメリカを事例に論じています。重要なのは、集団化した時に向かうべき方向を本来の主旨に戻って見直す作業をしないとけないということです。生きていくうえで集団と関わることは避けられません。学生のみならずには、絶えず個人との関係を意識しながらリーダーシップを発揮する人材になってほしいですね。

文化情報学部

田口 哲也
【文化情報学部長】



「秋山清詩集」

現代詩文庫(思潮社)
1,165円＋税

秋山清は日本で戦争に協力していない数少ない詩人の1人です。アナキストとしての主張を貫き通した人ですが、それができたのは、いい悪いを直接的に語らず、それがわかるような風景を切り取って詩にしたからです。難しい言葉を並べるのは簡単ですが、日常的な話し言葉で詩を書くのはやさしいことではありません。秋山は単純な表現で奥深い感情を表現しました。世の中にはメディアに取り上げられる機会は少なくても、影響力のある本はあります。秋山の詩集はまさにその1冊です。



「人はなんで生きるか」

トルストイ民話集
中村白葉訳
岩波文庫 540円＋税

民話をベースに、人間は何によって生きているのかを示唆した短くシンプルな物語。トルストイ自身「戦争と平和」などの大作を書いた後、キリスト教的な考え方が大事だとして、自分の生き方を大きく変えました。この中では土着の物語を背景にして、神の愛によって生きるというトルストイ流の考え方を展開しています。ストーリーがシンプルで凝った修飾があるわけでもありませんが、テーマがはっきりしていて、神の愛、人間愛といったものが明確に表現されています。



心理学部

佐藤 豪
〔心理学部長〕

学部長がお勧めする

この秋に読んで欲しい本

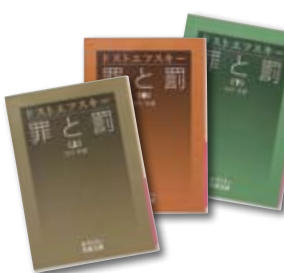


「ベル・カント」
アン・パシェット著
山本やよい訳
早川書房 2,600円＋税



グローバル・コミュニケーション学部

中村 久男
〔グローバル・コミュニケーション学部長〕



「罪と罰」(上・中・下)

ドストエフスキー著 江川卓訳
岩波文庫
上・中800円＋税、下860円＋税

南米のとある小国でのパーティーの最中、テロ集団が来襲し居合わせた人々を人質にとります。国籍も人種も言葉も様々な人質とテロリストの共同生活は、まさに思想、人種、文化の違いを抱えた小さなグローバル社会です。その中で人々は言葉の壁を越えてコミュニケーションをとり合い、やがて敵と味方の枠を超えたふれあい確立されていくのです。言葉とは何か、コミュニケーションとは何かを考えてみてください。イタリア語のタイトルの謎解きも合わせて。



グローバル地域文化学部

松本 賢一
〔グローバル地域文化学部長〕



「京都を楽しむ 地名・歴史事典」

森谷勉久著
PHP文庫 876円＋税

京都で学ぶ学生ならこれくらいは知っておいたほうがいいという本です。京都の町を洛中、洛北、洛南、洛東、洛西と分け、それぞれのエリアにある寺社などが、あまり知られていないものも含めて網羅されています。私自身、京都生まれなのですが、地名や謂われなど知らないことが多い。読んでみて改めて京都の奥深さを知りました。京田辺キャンパスで学ぶ理系の学生は、とくに京都市内に縁遠くなりがちなので、この本を読んで出かけてみようと思ってくれるとうれしいですね。



理工学部

辻 幹男
〔理工学部長〕



「錯覚の科学」 あなたの脳が大ウソをつく」

クリスチャーチャープリス ダニエル・シモンズ著
木村博江訳
文藝春秋 1,571円＋税



生命医科学部

横川 隆一
〔生命医科学部部長〕

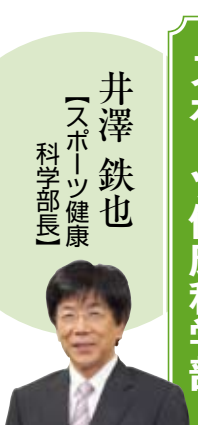
胎教でモーツァルトを聴かせると賢い子どもになるという通説は間違い、サブリミナル効果は存在しないなど、最先端の科学実験で脳科学の通説をことごとく覆しています。現実の中で人間の脳がいかに自分の都合のいいように解釈しているか、人間はいかに錯覚を起こしやすいかが、この本を読むとよくわかります。自分では正しいと思っていても、知らないうちに錯覚の世界に陥っている可能性があるとということです。正しく判断するためにも、常に客観的な目を持っていたいですね。



「男の作法」

池波正太郎著
新潮文庫 490円＋税

男(大人)が生きていくうえで必要な様々な人生訓がちりばめられています。例えば、自分の欠点などは他人に言われて気づくことが多いが、それをなかなか素直には受け入れられない。他人の意見は大事にしてよく聞いたほうがいいといったことです。ある医学部の先生はこれを自費で購入して新入生全員に配ったそうです。今はわからないかもしれないが、社会に出ると、きつと役に立つことがあるだろうからと。私も学生時代にこの本と出会っておれば、と思っています。



スポーツ健康科学部

井澤 鉄也
〔スポーツ健康科学部部長〕

その他のお勧め図書

- 習慣の力
チャールズ・デュヒッグ著 渡会圭子訳
講談社 1,900円＋税
- 伊勢神宮
日本人は何を祈ってきたのか
三橋健著 朝日新書 760円＋税
- 真珠湾収容所の捕虜たち
情報将校の見た日本軍と敗戦日本
オーレス・ケリー著 ちくま学芸文庫 1,400円＋税
- 爪と目
藤野可織著 新潮社 1,200円＋税
- 近代文化史入門―超英文学講義
高山宏著 講談社学術文庫 1,050円
- 最後の忠臣蔵
池宮彰一郎著 角川文庫 590円＋税
- 西行花伝
辻邦生著 新潮文庫 933円＋税
- 男子の本懐
城山三郎著 新潮文庫 704円
- イヴの七人の娘たち
ブライアン・サイクス著 大野晶子訳
ヴィレッジ・ブックス 820円＋税
- 新島八重子回想録
同志社大学出版部 695円＋税
- 自由と規律
池田淑著 岩波新書 700円＋税
- 独学という道もある
柳川範之著 ちくまプリマー新書 700円＋税
- ドラッカーと会計の話をしよう
林總著 中経出版 1,400円＋税
- 稲盛和夫の美学 経営と会計
稲盛和夫著 日経ビジネス人文庫 524円＋税
- 原発とは結局なんだったのか
いま福島で生きる意味
福島大学教授清水修二著 東京新聞 1,400円＋税
- 中国の市民社会
動き出す草の根NGO
李妍姦著 岩波新書 800円＋税
- 人権宣言集
高木八尺・末延三三・宮沢俊義編 岩波文庫 960円＋税
- 物語 ウクライナの歴史
ヨーロッパ最後の大国
黒川祐次著 中公新書 860円＋税
- 光る風(コミック)
山上たつ子作 小学館 2,500円＋税
- 野獣死すべし
大藪春彦著 光文社文庫 590円＋税
- オランダ靴の謎
エラリー・クイーン著
中村有希訳 創元推理文庫 940円＋税
- テロリストのパラソル
藤原伊織著 角川文庫 590円＋税
- 二本指の法則
ジョン・マニング著 村田綾子訳 早川書房 1,700円＋税
- 137億年の物語
クリストファー・ロイド著 野中香方子訳
文藝春秋 2,990円＋税
- 生物と無生物のあいだ
福岡伸一著 講談社現代新書 740円＋税
- 時雨みち
藤沢周平著 新潮文庫 590円＋税
- くじけないで
柴田トヨ著 飛鳥新社 952円＋税
- アメリカ彦蔵
古村昭著 新潮文庫 819円＋税
- 静かな大地
池澤夏樹著 朝日新聞社 2,300円＋税
- 路
吉田修一著 文藝春秋 1,650円＋税
- フランス革命
歴史における劇薬
遅塚忠彰著 岩波ジュニア新書 820円＋税
- 大尉の娘
ブーシキン作 神西清訳 岩波文庫 780円＋税
- 父と子
ツルゲーネフ著 工藤精一郎訳 新潮文庫 514円＋税

〈特集〉対談 芥川賞作家・藤野可織さん

恩師と語る同志社時代の思い出

第149回芥川賞を受賞した藤野可織さんは生粋の同志社っ子。中学から同志社の門をくぐり、大学院博士課程(前期課程)を修了するまでの12年。その長い時間は藤野さんの現在とどのように関わっているのでしょうか。学びの中で得たこと、当時の思いやこれからのことについて、大学院で指導を受けた岸文和文学部教授と語り合っていました。



岸●遅ればせながら芥川賞の受賞おめでとうございます。

藤野●ありがとうございます。

岸●ペンネームの「藤野可織」さんについては色々なところでインタビューもされていると思いますが、今日は本名の「藤野香」さんについて、大学時代のことを中心にお話を伺おうと思っています。中学・高校と同志社で、大学では文学部美学芸術学科(美芸)。なぜ美芸を志望したのですか。

藤野●美術館の学芸員になりたいかったです。しかし当時、同志社高校から美芸へは3人しか進めませんでした。希望者が多いと成績が良くない人は採ってもらえません。1年生の時はあまり勉強をしないでしたものから、2年生から勉強して何とかギリギリで滑り込めました。

岸●大学に入ってからの勉強で印象に残っていることはありますか。

藤野●当時はまだパソコンが1人1台という時代ではなくて、使うのはワープロでした。大学に入ると同時に両親が旧式の大きなワープロを買ってくれましたので、早く上手になりました。ひたすら小説の本を開いて打つ練習をしていましたね。実際に使うのはレポート作成程度でしたが。

学院修了後、一度就職したのでしたね。

藤野●小説も書きたかったのですが、私の中には小説を書くために何も仕事をしないという選択肢はありませんでした。とにかく就職しなければならなかったし、カメラも好きだったので、編集プロダクションでカメラマンの助手をすることにしました。しかし、うまくいわず半年で辞めました。なりたいたと思った職業は全部だめだったんです。学芸員にもなれませんでしたし、研究者も無理でした。カメラマンの夢も破れて、残ったのが小説だけだったのです。それで、小説にしっかり向き合わなくてはいけないと思ったのですが、それでも働かないわけにはいかなかった。世界思想社という京都の学術出版社にアルバイトで入りました。出版社に入ったといっても、小説家になるためのステップというわけではなく、条件は朝出社したら夕方には帰れて残業がないことだけ。献本作業、宛名書き、ホームページの更新、簡単な校正作業、索引作りと、何でもしていました。そこには3年半いたので、さすがに居心地のいい会社でした。

岸●学生時代、本はよく読みましたか。

藤野●本はずっと好きで、小学生の頃から読み始め、中学・高校の時も普通の人よりは読んでいるほうだったと思います。

岸●課外活動は何か？

藤野●カメラクラブで写真を撮っていました。この時の経験は大きかったと思います。写真を撮ろうとすると、対象をよく見なければいけないので、様々なものをよくよく見るようになりました。

岸●観察眼が養われたということですね。大学院の修士論文でも写真をテーマにされていました。木村伊兵衛という写真家が戦時中に日本画家の仕事で海外の人に知らせるために作った写真集。その写真の1点1点について何をどのように撮っているかを分析しながら、なおかつ複数の写真の構成まで分析した極めて精緻な研究論文で、ゼミを共同で運営していた太田孝彦先生(日本美術史)も高く評価されていました。精緻という意味では、あなたの作品でもよく言われていることですが、その辺りはどうお考えですか。

岸文和

〔文学部教授〕

藤野可織さん

岸●たくさん本を読んできたことは小説を書く上でも役に立っていますか。

藤野●基本的に本をまったく読まない人に小説は書けないし、そもそも書くことも考えないと思うのです。ある程度読んできたからこそ書くようになったのだと思いますし、ある段階では現実の生活より本を読んでいるほうがずっと楽しかった。それで小説家になったんだと思っています。

岸●最後に、同志社の先輩として後輩の学生たちにぜひ伝えておきたいことはありますか。

藤野●せっかく大学に入って、多様な授業があつていろんな話が聞けるので、少しでも興味を持ったら、自分の学部以外でも積極的に授業を受けてほしいですね。小説家になるかどうかは関係なく、どこで何が役に立つかわかりません。私自身、大学時代から授業に出るのが好きで、今でもできることなら教養教育科目でもいいから受けたいと思っています。実際、大学院を修了してから何度か先生のゼミに参

藤野●大学院のゼミを共同で運営しておられた岸先生と太田先生は文章にとっても厳しくて、発表のレジュメでは「何を書いているのかわからない」と、よく叱っていたいただきました笑。見たものを正確に言葉にできなかったらいけないし、逆に言うと、研究対象を言葉で正確に描写することができれば論文は書けたも同然だとおっしゃっていました。それは論文の書き方であつて小説とは違うのかもしれませんが、それ以降私は小説を書く時にはずっとそのことを念頭においています。

岸●ちなみに最初の小説を書いたのは、大学院在学中でしょうか。

藤野●修士論文を書きながら、それがあまりにもつらくて、気晴らしに書いたものが最初です。これはある新人賞の選考には残りましたが、発表はしていません。

岸●それは知りませんでした(笑)。ところで大

加させていただきましたよね。実は、先日書いた8つの短編のいくつかは、美芸に関係したものを素材にしたのです。純文学の世界で私ほどあからさまに美芸のネタを使っている作家は、今のところいないと思いますし、それが私の特色だと思っています。先生のゼミに今後も出席させていただければ、また短編が4つくらい書けるんじゃないかなと思っています。

岸●そういうお役に立てるのならうれしいですね。どんどん来てください。

藤野●これからもよろしく願っています。

藤野可織さん

〔2003年 大学院文学研究科博士課程(前期課程)修了〕

1980年生まれ、京都市出身。2006年、鳥に変身した男と人間の闘いを描いた『いやしい鳥で文学界新人賞を受賞』デビューした。2009年、『にえ』で第141回芥川賞候補に。パトリオネで野間文芸新人賞候補。大学卒業間際から10年付き合っている結婚した主人は同じ美芸の同級生で、岸先生のゼミの教え子でもある。

数理モデルで人と社会の諸現象を解析する

ゲームを通して ロジックを理解する

2005年4月「文理融合」を謳い同志社大学で9番目の学部として誕生した文化情報学部。情報処理技術の修得や情報の分析を主目的とする情報系学部が多い中で、本学の文化情報学部の教育・研究内容はその枠にとどまらない。人間の営みすべてを「文化」としてとらえ、その現象を「データサイエンス」によって分析・解析し、これまでの手法では見えなかった事実を探索する。その学びを通して身につけていくのは、人文・社会科学系の学問の背後にある個別的・人間的な発想法と、自然科学系の学問の基底にある普遍的・論理的な思考法だ。

「様々な事象について、あやふやな印象」で説明するのではなく、科学的なアプローチで迫り、厳密なデータに基づいて論理的に解説する。他人の意見や考えを聞いた時に、簡単に納得するのではなく、「本当にそうなのか」と疑問を持つ。何かが起こった時、なぜそうなるのか、どういうロジックがあつてそうなるのかに関心を持ち、自分で考えてデータを集めて解析する。

そういう姿勢や能力を身につけてほしいと思っています」

このように話す川崎廣吉教授の専門は数理モデル。人間と社会が織りなす文化生態系の諸現象を、数式や計算機シミュレーションを用いた数理モデルによって解析検証する。主題となるのがゲーム理論だ。社会の様々な場面で見られる、人と人との結びつきの関係を広くゲームとしてとらえ、そこに共通する性質や法則を明らかにする。「わかりやすく言えば『駆け引き』の理論で



す。2人がある駆け引きで、それぞれ高い利得をあげた

う。その時、互いに競争相手かのような行動をとるのかを考えた上で合理的に行動すると考えれば、その結果は第三者があらかじめ予測できるのではないか。この解析を進めるためにゲーム理論を使います」

川崎 廣吉
【文化情報学部教授】

ゼミでは題材に「四人のジレンマゲーム（協調と裏切りのゲーム）」を用いる。隣り合

う2者が互いに協調すると利得を得られるが、一方が裏切りを選ぶと、裏切った側の利得はより上がる。ただし、両者が裏切りを選んだら、利得は下がる。そうしたジレンマ的なゲームの中で、協調がどのように広がっていくかを研究する。

「現実の世界でも、協調している人の中で1人だけ裏切り行為、いわゆるズルをして得をすることがあります。世の中をうまく渡るには、当然得をした方がいいですね。しかし、裏切ることで得をすれば、同じように得

をするために裏切る人がどんどん増えていくはずですが、現実の社会ではそうはなりません。それはなぜなのかということ、ゲームを通して理解していくのです」

もちろん、こうしたゲーム理論を実社会でダイレクトに生かすことは難しいかもしれない。しかし物事を考える時には、組み合わせによって色々なことが起こり得ることをしっかりと理解しておかなくてはならない。そのような教訓的な意味合いがあるのだと、川崎教授は言う。

秋学期の「コロキアム」で 卒業研究を発表

文化情報学部では3年次の11月に所属するゼミが決まる。学部全体では26ほどのゼミがあり、基本的には学生の希望で分かれる。1ゼミ当たりおよそ11、12人。各ゼミの人数がほぼ均等になるように、希望者が集中すれば成績順で割り振られていく。川崎ゼミでは3年次の間に1、2度、顔合わせを兼ねて集まり、正式なスタートは4年次の春学期からだ。

学生たちは、コンピュータを使ってデータ分析をする手法を3年次までに身につけているため、4年次からは個別のテーマに沿って研究を進める。春学期に卒業研究のテーマを提出し、夏休みの間にデータ収集などを行い、秋学期からは卒業論文についての発表が始まる。

文化情報学部を特徴づけているのが秋学期にあるカリキュラム「コロキアム」である。12のクラスに分かれ、出席した1・3年次生を前に、毎回3人程の4年次生が卒業研究の発表を行う。3年次生にとっては翌年に控えた卒業研究に備える意味を持ち、1年次生には具体的な研究の進め方を知る機会であると同時に、身近な先輩の実際の姿から文化情報学部の学びを理解する場でもある。学年を超えた知的交流が行われると同時に、学生同士の人間関係も深められるユニークな授業だ。

文理の枠を超えた学びに 期待して

今回ゼミ生にまず確かめたかったのは、文化情報学部を選んだ理由である。

「多角的に様々なことができる学部だから」（新井弘和さん）

「今の社会では、文系と理系両方の考え方を持っている人が求められていると知って」（吉田孝さん）

「まったく自分が知らないことをやってみたかった」（佐藤恵里子さん）

「学びの幅が広いということと、新設学部ということで好奇心があつて」（渡辺直哉さん）



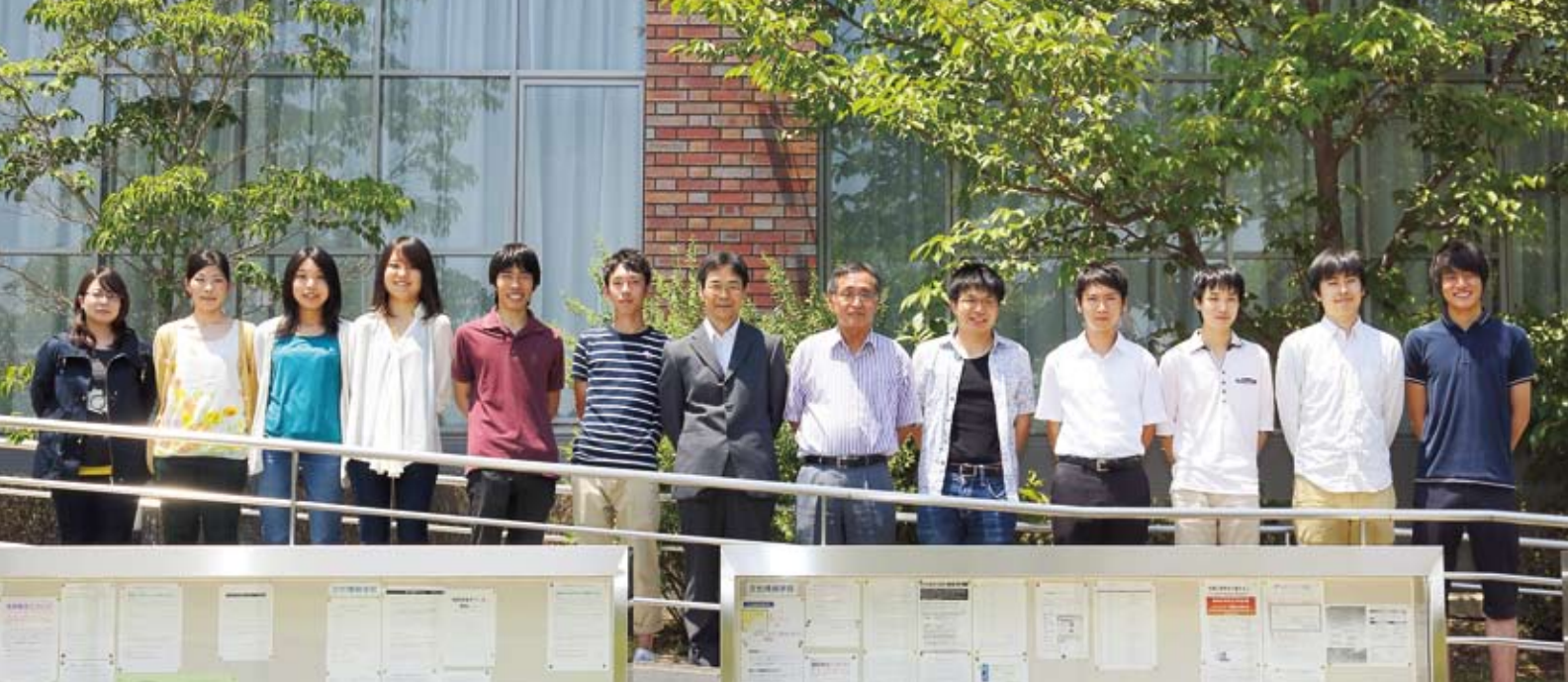
興味があり、コンピュータに強くなりたいと思った（真野寛生さん）

「様々なことができる学部。自分自身、やりたいことがいっぱいあつて絞りきれなかった」（正村元一さん）

やはり、文理の枠を超えた多彩な学びを志望理由に挙げた人が多い。

一方、文化情報学部の卒業後の進路は一般企業が最も多く、教員や公務員などが続く。川崎ゼミでは新井さんが自動車メーカー、吉田さんが食品メーカー、真野さんはアパレルに内定している。また、佐藤さんのほか、飯沼万美子さん、木村望さんは現在大学院生で、文化情報学部の約10%の学生が大学院に進学する。進学の理由を、飯沼さんは「研究をするのは今しかできませんから」、木村さんは「統計とシミュレーションをもう少し続けたかったのだ」。来年前期課程修了予定の3人は、揃ってSE（システムエンジニア）を志向する。

「文化情報学部で学んだ考え方や物事の組み立て方は様々な職業で活かせるはずですよ」と、川崎教授が話すように、この学部で身につけた幅広い教養と視野、そして未知の領域に飛び込むチャレンジ精神は、どのような道に進んだとしても助けになるだろう。



【A】今年3月に行われた香港の「国際模擬仲裁大会」で優れた書面の作成者に贈られる優秀メモランダム賞を「原告」と「被告」双方のサイドで獲得したチームの一員、亀井理生さん(法学部4年次生)。日本の大学からの出場チームで両方の賞を同時に獲得したのは初めて。将来はアメリカのロースクールを修了し、海外で国際弁護士として活動したいという。



企業向けに、国際ビジネスについてのセミナーを6回のシリーズで提供し、多くの方に出席していただきました。また、RECITALの欠かせない活動として、定期的に開催している研究会があり、今年度はすでに7回開催しているのですが、その講師として実業界の最前線で活躍している方、アメリカや中国でビジネスを展開している方、あるいは国連の国際ビジネスに関する機関のアジアのトップの人、アメリカの大学の著名な教授などをお招きし、学内はもちろん、オープンな形で実業界の人たちにも参加していただいています。実務的な視点で様々な問題を審議・検討し、法学の理論的アプローチも交えて、毎回活発な質疑応答を展開しています。

究極の目標へ近づくための5年間

もう1つの特徴は、国際的な展開をしていることです。外国の研究機関、具体的には韓国の中央大学にあるEトレード研

究所と協定を結び、相互交流や共同研究を行っています。学内の研究センターで外国の機関と協定を結んでいる例はほとんど見られないと思います。また研究雑誌を発行しているEトレード研究所と同様に、今年度中にはRECITALでも電子ジャーナルという形で世界各国の研究

者の成果を発表しようと考えています。この電子ジャーナルの発行が、2年目を終えた時点での研究センターの活動の1つの成果といえるかもしれません。

RECITALの開設期限は2016年3月までの5年間です。活動目的は国際ビジネスに関する様々な問題を研究することですが、最終的なゴールを具体的に想定していません。5年間のうちにそれぞれの問題ごとに研究を深めていくということとなります。センター開設に当たって設定した主要な研究テーマは次の3つです。

① 知的財産権に関する国際的なビジネス上および法律上の諸問題の研究。

② 国際ビジネスにおける電子化と契約交渉に関する諸問題の研究。

③ 国際ビジネス紛争の解決技術に関する諸問題の研究。



【B】韓国・東亜大学校での国際セミナー
【C】実務的な視点で国際的な研究会を主催

国際ビジネス法務の世界大会へ

RECITALが担う重要な役割として、欠かすことができないものがあります。

それは5年という短い期間では不可能かもしれませんが、しかし、国際ビジネス法務について知りたいければ、まずは同志社大学のRECITALへ行こうと思っても

らせる存在になることを目標に、5年間で少しでも近づきたいと考えています。

対象となるのは法学部や商学部の学生だけではなくありません。他学部の学生にも門戸を開いており、挑戦する学生が学部の枠を超えてさらに増えることを願っています。この大会に出場したことで大きく人生が変わった学生も数多くいます。私たちもできる限りそうした刺激を学生の皆さんに与えていきたいと思っています。

国際ビジネス法務の世界的研究・教育拠点を目指す

「国際ビジネス法務研究センター（RECITAL）」は、グローバルなビジネスとその法的諸問題について、実業界その他多方面の人々と連携し調査・研究することを目的として、2011年6月に開設された。「理論を欠いた実務は危険。実務の裏付けのない理論は空疎」という考え方をベースに、理論と実務の両面から、また経営的視点と法律的視点から、グローバルなビジネスに関する個別の問題について、分析・検討・提言を行っている。法学と商学、両学部の融合による、学部間の壁を取り払ったボーダーレスな研究機関という位置づけから、センター長の高杉直法学部教授と副センター長の吉川英一郎商学部教授に、その役割と意義について聞いた。

国際ビジネス法務研究センター（RECITAL）

高杉 直【法学部教授】

吉川 英一郎【商学部教授】



実業界との密接な連携

現在、世界経済は各国の企業がその推進役となっています。しかし、グローバル化が進んだ現代においては、法律、制度、慣習言語、文化が異なる外国との関係を抜きにして事業を成功させることは困難です。しかも、その異質性のために、国際ビジネスの現場では様々な問題が生じているのが現実です。国際ビジネスと法に関わる調査・研究を通して、そうした諸問題を解決し、社会の発展に寄与していこうと2011年6月に開設したのが「国際ビジネス法務研究センター（RECITAL）」です。しかし、実際のビジネスは理論的な法学からのアプローチだけでは十分とは言えません。実務に基づいた商学の視点が不可欠です。すなわち「正確な理論や情報を欠いた実務は危険である／豊富な実例や経験を欠いた研究は空疎である」この考え方から、法学部と商学部双方の教員がRECITALの主要メンバーとなり、活動の中心的役割を担っています。縦割りの組織構成が主体の大学で、異なる学部が融合し、広く全学的にその門戸を開いているという意味では、きわめて珍しい研究機関だと言えるでしょう。

センターの特徴の1つに、実業界との関わりが深いことが挙げられます。例えば昨年1年間は、関西経済連合会の会員

■収支計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	31,350,050	31,436,006	△ 85,956
手 数 料	1,713,950	1,823,829	△ 109,879
寄 付 金	277,230	1,102,538	△ 825,308
補 助 金	3,923,720	3,876,372	47,348
資 産 運 用 収 入	625,960	674,614	△ 48,654
資 産 売 却 差 額	478,050	490,845	△ 12,795
事 業 収 入	562,560	724,990	△ 162,430
雑 収 入	822,790	927,204	△ 104,414
繰 出 金	204,600	200,291	4,309
分 担 金	117,010	117,010	0
(帰 属 収 入 合 計)	(40,075,920)	(41,373,699)	(△ 1,297,779)
当 期 固 定 資 産 除 却 額	1,871,930	2,072,636	△ 200,706
借 入 金 等 収 入	0	0	0
当 期 未 払 金	24,100	72,207	△ 48,107
第 2 号 基 本 金 取 崩 額	4,490,000	4,490,000	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(6,386,030)	(6,634,843)	(△ 248,813)
特定支出準備金取崩額	94,380	360,205	△ 265,825
[収 入 の 部 合 計]	[46,556,330]	[48,368,747]	[△ 1,812,417]

用 語 解 説

● 収 支 計 算 書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

● 基 本 金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

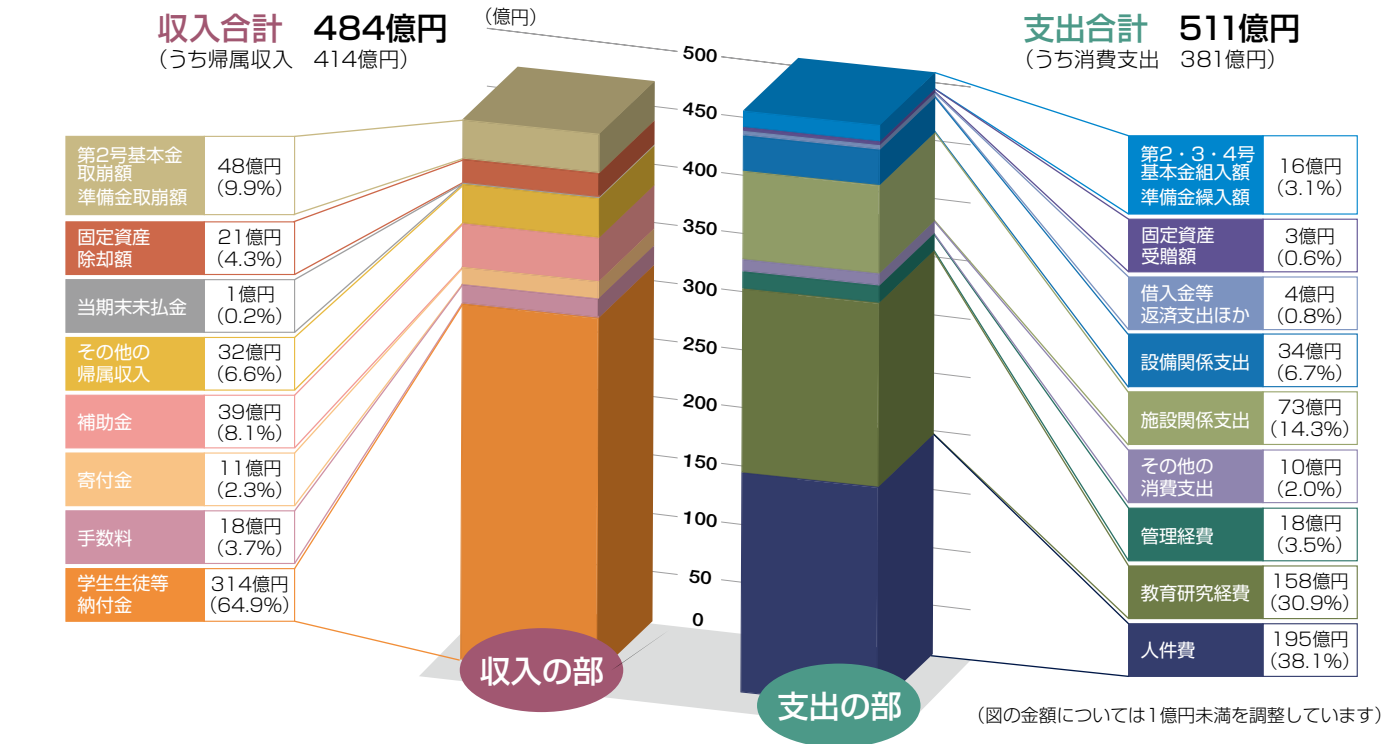
収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

■収支構成図



2012年度 大学決算について

財務部 経理課

2012年度大学決算は、2013年5月9日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月25日開催の法人理事会で承認されました。

2012年度の教学組織に関する改革は、建学の理念である「国際主義」をさらに推進する諸事業に重点的に取り組みました。文部科学省「グローバル人材育成推進事業(グローバル30plus)タイプA(全学推進型)」に、「良心と進取の気性に溢れる同志社グローバル人材育成のための実践的取組」が採択されました。引き続き事業展開している「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」と合わせて、グローバル社会で活躍できる人材育成に継続して取り組みました。さらに、大学院教育の抜本的改革を支援する文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に、「グローバル・リソース・マネジメント」が採択され、多文化共生の課題に挑む人材の養成への取り組みもスタートしました。また、学研都市キャンパスでは、脳の仕組みを研究対象とする「脳科学研究科(一貫制博士課程)」を開設しました。

研究力をより一層強化するために、産官学連携や国際共同研究、研究拠点形成などに積極的に取り組んだ結果、「私立大学戦略的研究基盤形成事業」に「高次神経機能障害の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発」、「日本学術振興会拠点形成事業」に「神経シナプスナノ生理学拠点の構築」がそれぞれ採択されました。

自然災害に対する緊急措置としては、「東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置」を継続するとともに、2012年度の大規模災害についても、学資支弁が困難となった在学生を対象に減免措置を行いました。

社会との連携を重視した地域に貢献する取り組みとしては、京田辺キャンパスにおいて、「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」が開設20年目を迎えました。また、地域に開かれた学園祭として「同志社クローバー祭2012」が開催されました。

将来に向けての改革では、2013年度からの文系学部一貫教育体制の構築を目指して、今出川キャンパス移転整備事業に重点的に取り組みました。とりわけ、良心館に開設された延床面積約2,550㎡、日本最大級のラーニング・コモンズは、交流と相互啓発の場である「クリエイティブ・コモンズ」とアカデミックスキル育成の場である「リサーチ・コモンズ」とからなり、「新しい学びの広場」として、多様な学習が展開されることが期待されています。また、今出川キャンパスにおいて、地域の文化・歴史・社会に関する学際的な知識を基礎に、グローバルな視点から現代世界が抱える諸問題を研究する「グローバル地域文化学部」(2013年4月開設)の開設準備に取り組みました。

上記のとおり、2012年度は、従来から継続している国際化の推進や今出川キャンパス移転整備事業等を中心に必要な財政的支援を行いました。支出面においては、今出川校地整備事業費や教育研究に係る各事業での経常的経費の執行残などにより、予算と比較して減少となりました。一方、収入面では、入学志願者数を安定的に確保したことによる入学検定料の増加や、奨学事業宛寄付金の受入れ、受託研究事業の採択に伴う外部資金の獲得に継続的に取り組んだことにより、予算よりも増収となっています。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は314億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は76%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は11億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金を受入れました。

補助金は39億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助20億円、特別補助7億円を受入れています。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金として研究装置、研究設備などの採択を受け、さらに戦略的な国際化拠点の形成を目的とした国際化拠点整備事業費補助金(グローバル30)、グローバル社会で活躍できる人材を育成するグローバル人材育成推進事業(グローバル30plus)、最先端研究開発戦略的強化費補助金(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム)などを受入れました。**資産運用収入**は7億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は7億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は9億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は2億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校

の負担分です。

当期固定資産除却額は21億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は45億円で、今出川校地整備事業に充当する大学今出川校地整備資金の取崩額です。

特定支出準備金取崩額は3億円で、使途が特定された準備金の取崩額などです。

収入の部合計は484億円となり、手数料、寄付金、事業収入、雑収入などの増収および当期末未払金の増加などにより予算に対して18億円の増加となりました。

支出の部

人件費は195億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は47%となりました。

教育研究経費は158億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は18億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金は6億円で、法人内諸学校への資金調達による繰入額が主なものです。

施設関係支出は73億円で、今出川校地整備事業などによる支出です。

設備関係支出は34億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

当期固定資産受贈額は3億円で、現物寄付金に相当する固定資産の取得額です。

借入金等返済支出は2億円で、償還計画に基づく

返済額です。

前期末未払金は2億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

特定支出準備金繰入額は16億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は511億円で、予算に対して2億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度消費収支差額は27億円**の支出超過となり、寄付金収入の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して21億円減少しました。なお、累積消費収支差額としては**343億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して2億円減少し、当年度末では**5億円**となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は320億円でしたが、当年度末は28億円増加して**348億円**となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

「新島襄海外渡航の地碑」 碑前祭を開催

6月14日、函館市大町で「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭が開催されました。碑前祭には大谷實総長、片岡栢函館副市長ほか法人関係者・校友・同窓、函館市民の方々など70人あまりが参加しました。同志社の創立者新島襄は、日本の現状を憂い、世界に目を向け、また海外事情とキリスト教を学びたいという情熱に駆られ、1864年に国禁を犯して21歳の若さで函館から脱国しました。その際、新島がアメリカ商船ベルリン号に乗船するために小船に乗り込んだこの場所に「新島襄海外渡航の地碑」が建立されたのは、1954年のことです。毎年行われる碑前祭は、学校関係者、卒業生などが同志社の原点とも言える碑の前で一堂に会し、新島襄の想いを改めて心に刻む機会となっています。



式典は厳かな雰囲気の中で始まり、讃美歌を一同で歌い、続いて大谷総長から式辞がありました。式辞の中で、大谷総長は、「当時の新島の胸中を振り返ってみると、日本の将来のために、敢えて国禁を



犯して出国した新島の志が、鮮明に浮かび上がってきます。新島の波乱に富んだ生涯の原点は、ここ函館の地にあるといってもよいでしょう。その志を継承し、発展させ200年の大計に向けて渾身の努力を続けていきます」と話し、続いてこの碑を60年近く守ってこられた函館市民の皆様に対する感謝の意が述べられました。その後、片岡栢函館副市長から「149年前の今日、函館滞在はわずか55日と短いものでしたが、多くの友人たちの命がけの協力を得て、米国への出国を果たしたと聞いています。以降、函館市と同志社の交流は続けられており、函館キャンプなど大きな広がりを見せています。今後さらに函館市と同志社の連携を多方面に深めていきたいです」と挨拶がなされ、出席者一同でカレッジソングを斉唱し、最後に碑前に花束を捧げて終了しました。

来年は渡航150年の記念の年にあたります。150年前の新島の志を、関係者一同で継承していきたいと思っています。

(校友同窓課)

第42回 Neesima Room 企画展 シンポジウム『会津と八重 ―八重を育てた故郷を語る―』

6月15日に良心館で、第42回 Neesima Room 企画展「公開講演会『会津と八重―八重を育てた故郷を語る―』を開催しました。大河ドラマ『八重の桜』が話題となる中、300人を超える人々が訪れ、新島八重や兄・山本覚馬を育んだ会津若松の風土の話に熱心に耳を傾けました。



オープニングは同志社女子大学音楽学科の学生有志による大河ドラマテーマ曲や童謡『ふるさと』の演奏があり、布留川正博同志社社史資料センター所長の挨拶、小枝弘和社史資料調査員が大河ドラマ特別展「八重の桜」の見どころ紹介などを行いました。そして、大河ドラマ「八重の桜」に資料を提供されている野口信一・会津歴史考房主宰が「会津若松城下 その歴史と文化」をテーマに講演されました。野口氏には、会



ドナルド・キーン氏に 「名誉文化博士」学位贈呈

7月9日、ドナルド・キーン氏に「名誉文化博士」学位の贈呈が行われました。これは日本文学・文化研究における顕著な功績を顕彰すると共に、本学への貢献に対する謝意を表し贈るものです。キーン氏と本学の繋がりは古く、1953年の文学部英文学科の卒業生・餞行事講演を始めとして、何度も講演され、

その後も京都へ訪れるたびにアーモスト館に宿泊していました。また、当時アーモスト館長であったオーテス・ケリー氏の紹介によって京都大学留学時に暮らしていた民家は、1979年に無資主庵として同志社に移築されています。

(広報課)

GRMグローバルリーダー シップ・フォーラム開催

6月8日、今出川校地神学館で、博士課程教育リーダーディングプログラム、グローバル・リソース・マネジメント(GRM)による「グローバル・リーダーシップ・フォーラム」を開催しました。

これは、グローバル・リーダーをめざすGRM履修生のために、世界の第一線で活躍する識者を招いて行う連続講演会で、1回目となった今回は公開で行い、学外からも多くの聴衆が詰め掛けました。

講師には、中東の独立系NPO ネットワーク Al-Sharq Forum 代表で、元衛星テレビ放送局アル・ジャジーラ総局長の Wadah Aref A Khanfar (ワダー・カンファール)氏をお招きし、「Arab Spring and the Democratization Process in the Middle Eastern Countries」

日米欧国際シンポジウム 「グローバル社会と京都」を 開催

グローバル社会における京都の役割を考える日米欧国際シンポジウムを、同志社大学と東京財団の共催で、6月10日に良心館で開催しました。第1セッション「グローバル化時代の市民外交」では、東京財団理事長の秋山昌廣氏がモデレーターとなり、欧州からは英国外務・英連邦省のビル・ロングハースト氏、米国からはジャーマン・マーシャル・ファンドのダニエル・ク

ライマン氏、そして、日本側からは村田晃嗣学長と東京財団の渡部恒雄氏がスピーカーをつとめました。各自の意見発表の後、グローバル化時代においては、中央政府のみならず、都市や市民が果たすべき役割が大



▲写真提供・東京財団

きいとして、フロアも交えた活発な外交議論が展開されました。第2セッション「グローバル社会における京都の獨創性」では、村山裕三ビジネス研究

科教授がモデレーターを務め、伝統産業のグローバル化で最先端を走る西陣織老舗企業の細尾真生社長より、欧州のトップブランドなどへの事業展開の成功例が、画像、動画を交えて紹介されました。その後、世界的な作曲家・音楽家のツトム・ヤマシタ氏と友禅作家の川邊祐之亮氏のコラボレーションにより誕生した、世界で初めての「音による染」(S-CORE)が、サヌカイト音楽にのせて披露されました。そして、この創作の背景になった考えなどが両氏より解説され、欧米からの参加者から、これらの新たな試みに対するコメントが述べられました。

当日は、月曜日の午前中にも関わらず150人以上の参加があり、USTREAMのシンポジウム中継では、約1,000人の視聴がありました。なお、このUSTREAM中継の録画は <http://www.tkfd.or.jp/event/detail.php?id=302> からアクセスが可能です。

(ビジネス研究科)

オープンキャンパス 2013 開催

7月28日は京田辺キャンパス、8月4日は今出川キャンパスでオープンキャンパスを開催。晴天に恵まれ、両キャンパスで約16,300人が来場しました。キャンパス再編の影響か、特に今出川キャンパスでは約900人増加しました。



両日とも、教員による学部・学科紹介、模擬講義、一般入試の英語問題を教員が解説する「同志社の英語を学ぼう!」・大学紹介・入試説明会、AO入試説明会、保護者説明会などを実施しました。個別相談ブースでは、受験生や保護者からの様々な質問に、教職員、在学生が丁寧に対応しました。また、2013年4月に開設したグローバル地域文化学部の学部紹介や模擬講義、本学卒業生をバネリストとして迎えた講演会も好評でした。その他、研究室、実験施設の紹介、独自企画イベントや図書館見学、キャンパスツアーなども行われ、活気溢れる充実した2日間となりました。



介、独自企画イベントや図書館見学、キャンパスツアーなども行われ、活気溢れる充実した2日間となりました。

(入学課)

2013年度 卒業式・学位授与式 / 2014年度 入学式

入学式				卒業式・学位授与式(学部)(大学院) 留学生別科修了式			
栄光館	寒梅館 ハーディーホール	京田辺校地 デイヴィス記念館		京田辺校地 デイヴィス記念館	栄光館		場所
4月3日(木)	4月2日(水)	4月1日(火)		3月22日(土)	3月21日(金・祝)	3月20日(木)	日時
10時	16時30分	14時	12時	10時	15時	12時30分	10時
全研究科	国際教育インスティテュート 日本語・日本文化教育センター 留学生別科	文学部、社会学部 政策学部、文化情報学部 スポーツ健康科学部	神学部、法学部 経済学部、心理学部 グローバル地域文化学部	文化情報学部・文化情報学研究科 生命医科学部・生命医科学研究科 スポーツ健康科学部・ スポーツ健康科学研究科 心理学部・心理学研究科 理工学部・理工学研究科	政策学部・総合政策科学研究科 アメリカ研究科 グローバル・スタディーズ研究科 司法研究科 ビジネス研究科 経済学部・商学研究科 経済学部・経済学研究科	法学部・法学研究科 文学部・文学研究科 神学部・神学研究科 社会学部・社会学研究科 留学生別科	学部・研究科

本学留学生が祇園祭に参加

本学留学生のウィルター・パトリックさん(ウィーン大学)とアンドリ・ヴェレンティさん(チュービンゲン大学)の2人が、南観音山を曳き祇園祭に参加しました。観光客としてではなく、祭りを支える伝統ある鉦町の一員として巡行前日の宵山でのボランティア活動から参加し、見学者に説明を行うなど貴重な機会に胸を躍らせていました。



本学の外国人留学生が山鉦巡行に参加するのは今回で9回目となり、京都の灼熱の太陽のもと、7月17日午前9時過ぎに出発。京都市内の大通りや辻を5時間近く歩き、くたくたになりながらも、京都でしか味わえない日本の伝統行事を満喫していました。

晩夕寮で火災訓練を実施

近年、災害への備えが喫急の課題となっています。大学の学生寮でも例年、火災訓練が自主的に実施されています。この度7月20日に晩夕寮でも、防災訓練の一環として火災訓練が実施されました。当日は京都市消防局の4人の消防士の指導のもと、寮生17人が防火対策についての話に耳を傾け、続く訓練に臨みました。話の中では「京都市では年間200件ほどの火災が発生し、その第1位の原因が放火に絡むものであることが紹介されました。その上で、防火にはまず家の周りなどの片付けや、各部屋での整理整頓が肝心であるなどの指摘がありました。加えて、熱中症などへの救急対応についても説明がありました。



続いて行われた訓練で、寮内で非常ベルが鳴ると寮生たちは外へ避難し、全員が避難したことを自主的に確認し、寮生自ら119番へ通報しました。消防士からは、訓練の模様についての評価が述べられ、初期消火の大切さや、119番通報のアドバースなどをいただきました。さらに、消火器の取り扱い方を寮生全員が交代で体験し、水が入った消火器を使用して真剣な表情で訓練を行いました。

情で火に見立てた物へ放水していました。今回の訓練は、参加者にとっては初めてのことでしたが、火災にとどまらず、総合的な防災意識を育むよい機会になったようです。

(学生生活課)

チャペル・コンサートを開催

7月20日、同志社礼拝堂でチャペル・コンサートを開催しました。演奏者はハンブルク国立歌劇場の副主席チェロ奏者として活躍されている鈴木・ライナー・龍一氏で、無伴奏チェロリサイタルとして行われました。鈴木氏はソリストとしてもドイツ各地でリサイタルシリーズに招聘され、数々のオーケストラと協演し、好評を得ておられます。鈴木氏をご紹介いただいた石川立神学部教授にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

当日は酷暑にも関わらず、高等学校音楽部の生徒や家族連れなど約220人の参加者で礼拝堂は満席となりました。

開会に先立ち、原誠キリスト教文化センター所長から挨拶があり、会場である重要文化財の同志社礼拝堂が改修工事を完了して1886年の創建当時の姿によみがえって以来最初のコンサートであるなどの説



明がなされました。

コンサートの前半はバッハの無伴奏組曲を中心とする17世紀の音楽、休憩をはさんで後半はレーガーとカサドの無伴奏組曲が演奏されました。いずれの曲も卓越した演奏テクニックの素晴らしさに加えて、温かく豊かな低音と繊細な高音が、残響の美しいチャペルの空間に広がり、1時間半にわたって満席の聴衆を魅了しました。アンコールで演奏されたカタロニア民謡「鳥の歌」も繊細な美しさが静かな感動をもたらしました。

長い歴史をもつ同志社礼拝堂でのコンサートは、新しい大規模なホールでは決して得ることのできない居心地の良い雰囲気を感じさせるものでした。

キリスト教文化センターでは今後も市民の方にも楽しんでいただけるコンサートを開催したいと考えており、このような機会を通して同志社のキリスト教主義に触れていただければと願っています。

(キリスト教文化センター)

新任教員紹介

この度、10月より新たに次の先生方をお迎えしました。
①所属(学科/専攻) ②職名 ③主な担当科目



坂元 茂樹
シカモト シンケイ
①法(法律)
②教授
③国際法総論



Manish SHARMA
マニッシュ シャルマ
①ビジネス(ビジネス)
②准教授
③Finance, Business Economics



Yaghoob Khojasteh
ヤゴフ ホジャステ
①ビジネス(ビジネス)
②准教授
③Business System Dynamics

大河ドラマ『八重の桜』に出演の本学卒業生 サイン色紙プレゼント

大河ドラマ『八重の桜』に会津藩の蘭学所教授 古川春英役で出演されるなど、数々のドラマや映画、舞台などで活躍されている本学卒業生の俳優・小市慢太郎さん(1991年生まれ)が来学されました。その際にいただいたサイン色紙を、抽選のうえ2名の方にプレゼントいたします。ご希望の方は、ハガキに住所氏名、学部(卒業生は出身学部と卒業年)、●ne Purposeの感想をご記入のうえ、11月20日(消印有効)までに広報課へご応募ください。

小市さんの色紙希望と明記してください。
当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

*広報課の連絡先は裏表紙に記載しています
*収集した個人情報 は、当選者への送付ならびにアンケート内容の分析のみに使用します



2012年1月図書館受入

大谷實先生喜寿記念論文集
澤川晃 編 他著 岩波書店 2,800円
土谷大尉 川崎昌巳 他著 成文堂 1,500円
日中理論言語学の新展望― 統語構造
沈力 他編 V&V出版 3,200円
Zum Spannungsfeld von Literatur, Politik und Massenmedien in Japan vor dem Zweiten Weltkrieg
Bettina Gidenhag 著 Ludicum 3,200円
自治体財政の健全化
田中治 他編 全国自治体職員協会 3,000円
国公有財産の管理
田中治 他編 全国自治体職員協会 3,000円
近代旅行記の中のイタリア
高田正宏 著 学術出版会 2,800円
アジアの非伝統的安全保障 II 中国編
鄭麗軍 他著 勁草書房 2,800円
永田鉄山
森田天 著 ミネルヴァ書房 3,000円
昔話を知る
廣田政 他著 二瓶洋書店 2,500円
労働法が目指すべきもの
土田道夫 他著 信山社 1,100円
事例で考える会社法
伊藤靖史 他著 有斐閣 3,400円
地方公共団体と自主課税権
白根典 著 森山社出版 8,400円
会社法・商行為法手形法講義 第2版
森本義孝 成文堂 2,800円
文明と野蠻を超えて
板垣退三 他著 かもがわ出版 2,800円
秀吉の御所参内・聚楽第行幸図屏風
岩崎博幸 著 重光社 2,500円
日本の図像 神獸靈獸
岩崎博幸 他著 J-Library 3,800円
日本の図像 櫻
岩崎博幸 解説 J-Library 3,800円
詳解スポーツ基本法
川井圭司 他著 成文堂 3,200円
注釈国際私法 第1巻
高木直 他著 有斐閣 6,800円
2012年4月図書館受入

労働と生存権
山田晃 編 大月書店 2,600円
よくわかるスポーツ文化論
藤田昭昭 他著 ミネルヴァ書房 2,500円
フミニズムの政治学
岡野八代 著 みづか書房 4,200円
法曹継続教育の国際比較
岡野八代 他著 日本加除出版 3,200円
アンテナ・無線ハンドブック
出口博之 他著 カール社 2,600円
アメリカ日米二世と越境教育
田中栄 他著 不二出版 3,800円

消費者行動論
神山貴弥 他著 八千代出版 2,200円
意味と構文
沈力 他編 V&V出版 3,200円
新法学講義 民事訴訟法
川崎昌巳 他著 悠々社 3,800円
判例講義 刑事訴訟法
洲渚光男 他著 悠々社 3,500円
現代の金融機関と法 第4版
川口泰弘 著 中央経済社 3,200円
刑法ゼミナール総論 第2版
川本哲郎 洲見光男 他著 成文堂 2,500円
通商政策の潮流と日本
寺田貴 他著 勁草書房 3,200円
日本葬制史
若林邦彦 他著 吉川弘文館 3,500円
発達と教育
井上昭義 他著 樹村房 1,900円
日本の農業150年
江崎俊作 他著 有斐閣 3,000円
京都・観光文化への招待
井口眞 他編著 ミネルヴァ書房 3,500円
グローバル財務会計
古賀寛敏 著 森山書店 3,800円
論点解析 知的財産法 第2版
井筒俊子 他著 商事法務 3,400円
権力vs調査報道
小島純 他編著 旬報社 2,000円
実践ジャーナリスト養成講座
小島純 他著 日経社 2,200円
入門ジャーナリズム
小島純 他著 勁草書房 2,100円
大災害の経済学
林敏彦 著 AIL研究所 800円
大学教育と地域
多田実 月村太郎 真山達志 他著 公人社 1,200円
2012年資本主義経済大清算の年になる
浜谷孝 他著 東洋経済新報社 1,500円
心理会計学
田口聡志 監訳 田口聡志 他訳 中央経済社 4,600円
ローカル・ガバメント論
真山達志 編 真山達志 他著 ミネルヴァ書房 3,000円
宇宙から見た地形
増田孝士 監訳 他著 朝倉書店 5,400円
大学の協同を紡ぐ
井筒俊作 名和文介 他著 J-Library 2,200円
中世詩歌の本質と運関
樺木朝子 他著 竹林舎 1,480円
学びの質保証戦略
山田孝子 著 玉川大学出版部 2,200円
物質循環のエコロジー
宮田眞 著 晃洋書房 3,600円

身体トレーニング
井澤鉄也 他編著 真興交伝書出版部 7,800円
国際レジームと日米の外交構想
大矢根聡 著 有斐閣 4,400円
市民権とは何か
富沢克 他訳 風行社 3,000円
グローバル社会の人材育成・活用
山田礼子 他著 勁草書房 4,500円
三井誠先生古稀祝賀論文集
十河大尉 川崎昌巳 洲見光男 奥村止雄 有斐閣 1,800円
課題解明の経済学
橋本俊昭 著 朝日新聞出版 1,300円
生殖医療
岩崎博幸 他著 丸善出版 5,800円
運動と免疫
井澤鉄也 他著 ナツ 3,600円
マイナーなればこそ
本井康博 著 思文閣出版 1,900円
論点体系 会社法2 株式会社II
中西敏和 他著 第1法規 4,800円
東京体系 会社法6
組閣再編II 外国会社 雑則・罰則
松澤昭司 他著 第1法規 4,800円
牧学入門
越川弘英 訳 日本キリスト教出版局 5,800円
2012年3月図書館受入

メキシコ近代公教育における
ジェンダー・ポリテクス
松久瑠子 著 行路社 3,000円
2012年4月図書館受入

三商大 東京大阪神戸 日本のビジネス教育の源流
橋本俊昭 著 岩波書店 2,600円
経済学史
西岡幹雄 他著 ミネルヴァ書房 3,200円
党国体制の現在
毛利重樹 他著 慶應義塾大学出版会
〈紫式部〉と王朝文芸の表現史
廣田政 他著 森山社 1,100円
新時代の博物館学
井上聡 他著 美術書局出版 1,900円
歴史としての日韓国交正常化II 脱植民地化編
太田修 他著 法政大学出版局 6,500円
発達科学入門2 胎児期・児童期
加藤正晴 他著 東京大学出版会 3,400円
政策評価
山金清志 著 ミネルヴァ書房 3,500円
危機における共同性
岸文和 他著 風潮社 3,000円
「リベラルナショナリズム」の再検討
富沢克 編著 馬原隆一 出版政経 他著 ミネルヴァ書房 2,000円
学生・職員と創る大学教育
山田和入 國戸勝博 他著 ナカニイ出版 3,500円

労働六法2012
土田道夫 他著 土田道夫 他 協力 旬報社 3,000円
スローなユビキタスライフ
関根千佳 著 地湧社 1,200円
2012年6月図書館受入

中世の芸能と文芸
樺木朝子 他著 竹林舎 1,480円
交響するコスモス 下巻
余國賢天 他著 松籟社 3,500円
ケースブック労働法 第7版
土田道夫 他編著 弘文堂 4,200円
マスコミ報道の犯罪
浅野謙一 著 講談社 500円
知的財産法の理論的探究
井筒俊子 他著 日本評論社 5,000円
文化系統学への招待
矢野龍 他著 勁草書房 3,200円
スポーツビジネスの法と文化
川井圭司 他著 成文堂 3,000円
メディアへの希望
渡辺武彦 著 論創社 1,800円
日本のTPP戦略
寺田貴 他著 文芸堂 2,800円
裁判員裁判の理論と実践
杉田宗久 著 成文堂 4,800円
判例にみるフランス民法の軌跡
荻野宗雄 深谷格 他著 法律文化社 8,000円
アジアのなかのジェンダー
高田正宏 中村麗子 佐伯順子 他著 ミネルヴァ書房 2,800円
金融商品取引法
川口泰弘 他著 青林書院 1,200円
新島八重と夫・義
一 会津・京都・同志社・増補改訂版
本井康博 他著 思文閣出版 1,200円
心理臨床の法と倫理
川本哲郎 他著 日本評論社 2,800円
モティベーションをまなぶ12の理論
及川典男 他著 金剛出版 3,200円
スポーツ六法 2012
川井圭司 他編 信山社 2,500円
日本の元氣印・新島八重
本井康博 著 思文閣出版 1,600円
中国の弱者層と社会保障
理橋孝文 他編著 明石書店 3,300円
ビジネス倫理学読本
稲井誠 他訳 晃洋書房 2,000円
肥大化する中国軍
浅野元 他編著 晃洋書房 2,300円
納税者権利論の課題
中村麗子 田中治 他著 勁草書房 1,500円
「戦争」で読む日米関係100年
森崎大他著 朝日新聞出版 1,600円

「思想」の軌跡
荻野美穂 他著 岩波書店 4,000円
労働経済学入門 新版
橋本俊昭 他著 1,700円
境界域からみる西洋世界
中井義明 他編著 ミネルヴァ書房 3,800円
アメリカ
二村太郎 他著 朝倉書店 3,400円
現代社会と福祉
理橋孝文 他著 ミネルヴァ書房 2,800円
中国経済あやうい本質
浜矩子 著 集英社 700円
フレッツ破産法 第5版
徳田和幸 著 弘文堂 1,600円
日本の村落と主体形成
庄司俊作 著 日本経済評論社 8,800円
日本経済史 改訂新版
林敏彦 他著 放送大学教育振興会 2,700円
ポップカルチャーとジェンダー
佐伯順子 他著 明石書店 1,500円
国際関係のなかの日中戦争
日野みどり 他訳 慶應義塾大学出版会 5,800円
経済学論集
森田雅彦 他訳 春秋社 4,000円
貧困問題とソーシャルワーク
山森亮 他著 有斐閣 2,100円
レクチャー・ジェンダー法
大島佳代子 他著 法律文化社 2,500円
トルコを知るための53章
内藤正典 他編著 明石書店 2,000円
世界の女性労働
中村麗子 他著 ミネルヴァ書房 3,000円
判例フラクテイス憲法
尾形健 他著 信山社出版 3,800円
判例フラクテイス刑法II各論
川崎友巳 十河大尉 他著 信山社出版 4,480円
転換期の東アジアと北朝鮮問題
寺田貴 他著 慶應義塾大学出版会 3,800円
労働法概説 第2版
土田道夫 著 弘文堂 3,500円
国際関係私法入門 第3版
高杉直 吉川英一郎 他著 有斐閣 2,400円
行政法学的未来に向けて
上原裕典 他編著 有斐閣 1,500円
最高の職場
中村麗子 他訳 ミネルヴァ書房 2,000円
現古辞典
石井久雄 他著 河出書房新社 2,800円
働くための社会制度
橋本俊昭 他編著 東京大学出版会 2,800円
中国経済入門 第3版
嚴智平 他著 日本評論社 2,600円
ゴシック短編小説集
石塚則子 大谷由布 金子佳道 下橋昌哉 藤井光 編訳 春風社 3,500円

概説近現代中国政治史
浅野元 他編著 ミネルヴァ書房 3,800円
経済学の地下水域
杉田宗雄 他著 晃洋書房 2,200円
西洋中世盛期の皇帝権と法主権
井上雅夫 著 関西学院大学出版会 4,400円
バイオマスプロセスハンドブック
高津淑人 他著 オーム社 1,200円
抗肥満食品の開発と応用 普及版
米井眞一 他著 シエムシー出版 4,400円
2012年7月図書館受入

日本の地域間格差
橋本俊昭 他著 日本評論社 2,000円
社会保障改革への提言
川口章 八木庄 塩津ゆりか ミネルヴァ書房 3,500円
日韓新時代と東アジア国際政治
村田晃嗣 他著 慶應義塾大学出版会 3,200円
格差社会を越えて
橋本俊昭 他編著 八木庄 他著 東京大学出版会 3,600円
開発途上国の政治的リーダーたち
浅野元 他著 ミネルヴァ書房 3,600円
新報社会科教育事典
金子邦秀 他著 きんせい 4,200円
ネットワークと中小企業
太田進一 著 晃洋書房 2,000円
語彙と詞
沈力 他編 V&V出版 3,300円
政策評価
山谷満志 著 ミネルヴァ書房 3,500円
平安京と貴族の住まい
齋藤俊夫 他著 京都大学学術出版会 4,200円
グローバルリズムと地域経済
橋本俊昭 他著 日本評論社 2,000円
社会経済史学の課題と展望
峯岡一 他著 有斐閣 5,500円
概説近現代中国政治史
浅野元 他編著 成文堂 他著 ミネルヴァ書房 3,300円
メタメディアルII
出口博之 社経男 他著 シエムシー出版 700,000円
民事手続法入門 第3版
川崎昌巳 他著 有斐閣 1,600円

2012年8月図書館受入

イスラームから世界を見る
内藤正典 著 筑摩書房 800円
変貌する中国経済と日系企業の役割
嚴智平 他著 勁草書房 2,900円
リスクの社会心理学
中谷仁也 編 成文堂 他著 有斐閣 3,000円
第一次分権改革後10年の検証
今川晃 他著 成文堂 2,800円

個人の人格の尊重と行政苦情救済
今川晃 著 成文堂 2,800円
地方公共団体と自主課税権
白根典 著 森山社出版 8,400円
近代日本高等教育体制の黎明
― 交錯する地域と国とキリスト教界
田中智子 著 思文閣出版 7,000円
中国長江デルタの都市化と産業集積
中村麗子 著 勁草書房 5,500円
政治経済学の新潮流
宮澤和俊 他著 勁草書房 4,800円
学士課程教育の質保証へむけて
山田礼子 著 東信堂 3,200円
都市交通の世界史
青木真美 他著 悠書館 3,000円
労働法 第11版
西村健一郎 他著 有斐閣 2,100円
戦争社会学ブックガイド
河崎吉紀 他著 創元社 1,900円
よくわかる社会福祉 第9版
空閑浩人 野村裕美 他著 ミネルヴァ書房 2,500円
新・国説中国近現代史
日野みどり 他著 法律文化社 2,600円
2012年5月図書館受入

人物で見る日本の教育
沖田行司 編 沖田行司 越水雄一 他著 ミネルヴァ書房 2,800円
財政恐慌
浜矩子 著 徳間書店 1,500円
ラテンアメリカにおける従属と発展
宮地隆廣 他訳 東京外国語大学出版会 2,800円
最新工業化学
大門英夫 他著 東京電機大学出版局 3,800円
源氏物語の注釈史
嵯峨健 他著 おひら 6,800円
ミクロ経済学 Minerva
エイシク・エコマニクス
吉田昭彦 他著 ミネルヴァ書房 3,000円
現代アメリカ経済論
村上裕二 他編著 ミネルヴァ書房 3,600円
新版まなびの入門監査論 第2版
百谷野正博 他編著 中央経済社 2,600円
スポーツ産業論 第5版
二宮彰 他著 杏林書院 2,500円
ケアの倫理からはじめる正義論
岡野八代 他編著 岡野八代 他訳 白澤社 1,800円
やさしい生理学 改訂第6版
井澤鉄也 他著 南江堂 2,400円
障害者スポーツ指導教本 初級・中級 改訂版
藤田昭昭 他著 きんせい 2,380円
現場で役立つ子どもの栄養学入門
柳田昌彦 他著 ラビュータ 1,600円
画像情報処理
三木光範 編 渡部広一 著 共立出版 2,000円

2012年6月図書館受入

国際関係論入門
大矢根聡 他著 法律文化社 2,200円
これからの医療と年金
西村健一郎 他編著 法律文化社
ナショナルミミマムの再構築
尾形健 他著 法律文化社 4,000円
2012年9月図書館受入

日中の壁
加藤千洋 他著 築地書館 2,000円
日出づる国の誕生
北康宏 他著 清文館出版 4,500円
機械屋のための分析装置ガイドブック
平山朋子 他著 コロナ社 3,400円
イランの Shia 派イスラーム学教科書II
富田健次 訳 明石書店 4,000円
歴史の中のアジア地域統合
寺田貴 他著 勁草書房 3,800円
南アフリカの歴史 最新版
峯岡一 他訳 明石書店 8,600円
家集の中の「紫式部」
廣田政 著 新泉社 1,800円
債権法改正と労働法
土田道夫 編 土田道夫 坂井岳夫 他著 商事法務 4,200円
新アメリカ商事判例研究 第2巻
川口泰弘 藤林大地 他著 商事法務 4,000円
子ども期の養育環境とQOL
小西行郎 他著 金沢書房 2,400円
エックハルト・ラテン語著作集5
中山善樹 訳 知泉書館 6,000円
中東の予防外交
中西久枝 他著 信山社 8,800円
「紫式部集」歌の場と表現
廣田政 著 笠間書院 9,000円
3.11と私
室田武 他著 藤原書店 2,800円
原価計算の知識 第2版
加登寛 他著 日本経済新聞出版社 800円
大学における学習支援への挑戦
山田礼子 他著 ナカニイ出版 2,200円
東アジアの格差社会
嚴智平 他著 朝来の水書房 4,200円
近代日朝関係史
小川原宏幸 他著 有斐閣 3,400円

2012年10月図書館受入

発達の基盤
内山伊知郎 他著 新泉社 3,600円
赤ちゃん学を学ぶ人のために
小西行郎 他編著 世界思想社 2,400円
中小企業のイノベーション
熊野正樹 他著 同友館 2,800円
群鳥のキリスト者たち
本井康博 聖人公出版 1,800円

大学の京都ガイドーこだわりの歩き方 錦標俊夫 他著 図和堂 2,600円 Japan GAAP Guide 2nd Edition 古賀智敏 他著 CCH Japan Limited 1,600円		社会保障と財政 田中宏樹 他著 有斐閣 5,000円 中国問題 戴善平 他著 東京大学出版会 3,300円		アクチュアル民事訴訟法 徳田和幸 岡田幸宏 川嶋四郎 他著 法律文化社 2,900円 新コンメンタール民法(財産法) 新田誠一郎 梶山善 他著 日本評論社 9,500円		憲法論点教室 厚形健 他編 松本浩治 他著 日本評論社 2,200円 民事手続法入門 第4版 川嶋四郎 他著 有斐閣 1,600円		日本人はなぜ戦争へと向かったのか上 森靖夫 他著 NHK出版 1,400円 自発的社会福祉と地域福祉 上野谷加代子 他著 ミネルヴァ書房 6,000円		中國學藝聚華 中西裕樹 他著 白帝社 4,700円 よくわかるACT 武藤崇 監訳 武藤崇 他訳 星和書店 2,000円		会社神話の経営人類学 藤本昌代 他著 東方出版 3,800円 一遍聖絵を歩く 錦標俊夫 他著 高志書院 2,500円		EU 第3版 鷲江義勝 瀬野信雄 他著 創元社 2,800円 平和憲法と人権・民主主義 出原政雄 他著 法律文化社 7,200円		よくわかる地域福祉 第5版 上野谷加代子 他編著 ミネルヴァ書房 2,200円 カナダへ渡った広島移民 和泉真澄 訳 明石書店 2,000円		「紫式部集」歌の場と表現 栗田収 著 笠間書院 9,000円 ソーシャルワーク論 小山隆 他著 ミネルヴァ書房 6,000円		イギリス映画と文化政策 河野伸子 他編著 慶應義塾大学出版会 2,600円 文化と靈性 中川吉晴 他著 慶應義塾大学出版会 2,800円		知的資産の会計 改訂増補版 古賀智敏 著 千倉書房 3,600円 格差社会 橋本俊昭 編 橋本俊昭 他著 ミネルヴァ書房 2,500円		固体物性工学 吉岡進三 他著 オーム社 2,600円 労働六法 2013 石川立 監後原順 他著 日本キリスト教出版局 7,500円		軍縮問題入門 第4版 土田道夫 他著 国報社 3,500円 輸出管理 村山裕三 他著 東信堂 2,500円		地域通貨 村山裕三 他著 有信堂高文社 2,000円 公共性の福祉社会学 室田武 他著 ミネルヴァ書房 3,000円		判例講義 会社法 第2版 伊藤晴史 他著 悠々社 3,600円 マイクログ波伝送・回路デバイスの基礎 辻野男 他著 オーム社 3,000円		強行法・任意法でみる民法 佐々木典子 他著 日本評論社 2,000円 経済学入門 改訂新版 村山裕三 他著 東信堂 2,500円		会社法コンメンタール3 株式(一) 森田章 伊藤晴史 他著 商事法務 6,200円 スポーツ生理学 石井好一郎 他著 化学同人 2,600円		発達心理学と隣接領域の理論・方法論 小西行郎 他著 新曜社 4,000円 コミュニケーションエネルギー 室田武 他著 農山漁村文化協会 2,600円		新コンメンタール 刑法 奥村正雄 十河裕樹 他著 日本評論社 3,200円 基礎演習民事訴訟法 第2版 岡田幸宏 林田 一 他著 弘文堂 3,300円		民事訴訟法概説 川嶋四郎 著 弘文堂 4,200円 新コンメンタール 民事訴訟法 第2版 岡田幸宏 林田 一 他著 日本評論社 6,000円		大正憲法 編 大正憲法 他著 有斐閣 2,600円 フリーエ・ラプラス解析の基礎 大宮昌之 著 北大出版 1,000円		源氏物語の享受 佐賀健 著 和泉書院 1,000円 否定と肯定の文脈 岸文和 他著 風橋社 3,800円		2要因の分散分析をすべてカバー 増補改訂	
--	--	---	--	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------------	--

ソーシャルワークの思想
木原信信 他編著 中央法規出版 3,400円

米井者でも無理解なく続く77の健康習慣
米井嘉一 著 ソフトバンククリエイティブ 730円

民法学の現在と近未来
田井義信 編 田井義信 他著 法律文化社 8,600円

世界経済危機における日系企業
嶋田巧 他編著 田淵太一 遠藤幸幸 他著
ミネルヴァ書房 5,600円

グレイフ・ランスカと宝塚交響楽団
相澤一美 著 朝倉書店 2,500円

判例憲法 第2版
尾形健一 他著 有斐閣 2,700円

スポーツの組織文化と産業
八木庄 横山勝彦 他編著 晃洋書房 2,000円

宗教の事典
藤又隆一 著 朝倉書店 2,500円

ソーシヤルワーカー論
空閑浩人 編 空閑浩人 野村裕美 他著
ミネルヴァ書房 4,200円

移動通信における電波伝搬
岩井誠人 著 コロナ社 2,800円

2012年12月図書購入

持続型生存基盤論ハンドブック
澤陽一 他著 京都大学学術出版会 3,600円

ウェッジウッドそしてモリス・リバティ
19世紀イギリスと日本
山田眞貴 著 朝日新聞出版 3,000円

明治美人論
佐伯昭子 著 NHK出版 1,200円

北東アジアの「永い平和」
寺田貴 他著 勁草書房 3,800円

スポーツの世界は学歴社会
橋本俊昭 著 P10研究所 2,800円

英文ビジネスメール／オフィスメール入門
亀田尚己 他著 丸善出版 2,400円

新・国富論
近藤孝子 著 文藝春秋 800円

基本刑法Ⅰ 総論
十河大明 他著 日本評論社 3,900円

日本の中央・地方関係
市川喜孝 著 法律文化社 5,400円

不安障害のためのACT
武藤崇 他監訳 武藤崇 他訳 豊和書店 3,400円

基礎から学ぶスポーツリテラシー
石井好二郎 他著 大修館書店 2,000円

「ミニタリанизム」のフロンティア
尾形健一 他著 勁草書房 3,700円

ディケンズ文学における暴力とその変奏
玉井史絵 他著 大阪教育図書 3,000円

内田康哉関係資料集成 第1巻〜第3巻
森清夫 他編 柏書房 3,980円

中国近代文化的解構と重建
山田史郎 岡村孝一 水越和 Michio Galsier 他著
國立政治大学文庫院 寄贈(金額記載なし)

東北アジアにおける古環境変動と
旧石器編年予稿集
松藤和人 編 林田明 松藤和人 他著 松藤和人
寄贈(額記載なし)

地域空間の包摂力と社会的持続性
二瀬智司 他著 日本経済評論社 4,000円

中国経済の転換点
嚴毅一 他著 東洋経済新報社 3,600円

社会のイメージの心理学 新版
池田謙一 著 サイエンス 1,800円

大学改革を成功に導くキーワード 30
山田礼子 他編著 学事出版 2,400円

グローバル化とトリートメント帝国
向正樹 他著 大阪大学出版会 2,100円

エッセンシャル法学 第6版
奥村正義 松原利一 十河大明 川崎友巳 他著
成文堂 2,900円

判例教材刑法 Ⅰ 総論
奥村正義 松原利一 十河大明 川崎友巳 著 成文堂
4,000円

クソクツニアが日本を変える
堀川佳子 他著 明石書店 1,600円

言語の創発と身体性
嶋田智子 他著 ひつじ書房 1,700円

国語語彙史の研究 32
藤井俊博 八木やが 他著 和泉書院 1,200円

条解民事再生法 第3版
川嶋四郎 徳田幸孝 他著 弘文堂 14,000円

計量政治分析
飯田健一 著 共立出版 3,500円

健康長寿をめざすアンチエイジング研究最新線
水井嘉一 著 同人社 5,000円

新島八重の印象
露口也 著 同人社 5,000円

労働法学の展望
土田通夫 他著 有斐閣 17,000円

アジア企業の経営理念
藤本昌代 他著 文眞堂 2,800円

グローバル・ビジネス
内藤正典 岡野代 編著 岡野八代 他訳
中西久枝 太田修 銭嶋一和太郎 菊池恵介 他著
ミネルヴァ書房 1,200円

地域研究への扉
岡張範一 伊藤安吾 遠藤誠 瀧原英人 清水様 銭嶋 剛島 邸
立林良一 飯後本真 洪崇裕 松本貴 寄藤隆雄 他著
有海保江 岡月博美 小松原 秀明子 小野文生 集合出版
高木光弘 竹内理博 小川玲子 水谷智 伊慧瑛 他協力
晃洋書房 2,200円

ファシリテーター行動指南書
中野民夫 監修 ナリシヤ出版 2,000円

宣教師と日本人
田原 他著 教文館 2,900円

年金未納問題と年金教育 佐々木 一郎 著 日本評論社 3,400円 2013年10月 図書館購入 ヨーゼフ・フラスと宝塚交響楽団 根岸一美 著 大阪大学出版会 2,000円 労働時間の決定 石田光男 寺井博 編 ミネルヴァ書房 4,600円 システム複合時代の法 綾部六郎 他 信山社 2,200円 ソフト・パワーのメディア文化政策 青木貞茂 他 新曜社 2,600円 国際経済法講座Ⅰ 瀬崎真悟 他 法律文化社 6,000円 国際経済法講座Ⅱ 高杉直 他 編 林真美、高杉直 他 著 法律文化社 6,000円 フッサーとハイデガー 工藤和男 他 訳 晃洋書房 3,000円 2013年世界経済総崩れの年になる！ 浜野亨 他 著 東洋経済新報社 1,500円 ジェンダー法学のインパクト 阿野八代 他 著 日本加除出版 3,300円 アジアのオンブズマン 今川晃 他 編 著 第一法規 2,300円 Eコトピア科学概論 和田善彦 他 著 コロナ社 2,800円 21世紀の中国 政治・社会篇 加藤千洋 他 著 朝日新聞出版 1,400円 ブリッジブック刑法の考え方 川崎友巳 他 著 信山社出版 2,200円 セックスとナチズムの記憶 川越修 荻野有樹 他 訳 岩波書店 6,500円 日中韓の戦後メディア史 小島純 他 著 藤原書店 3,800円 国際連合における拒否権の意義と限界 瀧岡重子 信山社 5,600円 アメリカ・カナダ 村田晃嗣 他 著 ミネルヴァ書房 2,800円 現代アメリカ 村田晃嗣 他 著 有斐閣 1,600円 判例法学 第5版 西村繁一 他 著 有斐閣 2,400円 60のケースから学ぶ認知行動療法 杉本孝子 石川信 他 著 北大路書房 3,200円 グローバル大恐慌時代の世界経済を読む 浜野亨 他 著 毎日新聞社 1,400円 コーパスとテキストマイニング 金明哲 他 編 著 立出版 2,300円 デブリン生化学 原書7版 井原康夫 他 監訳 西川喜代子 野口麗子 舟本聡 他 訳 丸善出版 1,600円 確率と統計の基礎―増補改訂版 宮沢大 他 著 ミネルヴァ書房 2,800円 教師とは何か 越川弘英 他 監訳 日本キリスト教団出版局 4,600円 中国文化史大事典 中西祐樹 他 著 大修館書店 32,000円 知るとは 岩田仁司 他 著 晃洋書房 1,500円 世代間移動・キャリア形成 阿形健司 他 編 藤本四代 清沢純子 阿形健司 他 著 日本図書センター 14,000円(本の価格の税別) 学歴社会と機会格差 岡崎史郎 他 著 日本図書センター 14,000円(本の価格の税別) 大衆化する大学 八木隆 他 著 晃洋書店 2,200円 複素解析の基礎 大橋由紀 著 北沢田 1,800円 京都の地域力再生と協働の実践 新川英昭 編 新川英昭 小田原康夫 他 著 法律文化社 2,400円 超多自由度系の最適化 木光敏 他 著 共立出版 6,800円 生涯スポーツ実践論 改訂3版 山崎英一 他 著 丸善 2,800円 磁性流体 山口重司 著 森北出版 2,600円 2013年10月 図書館購入 知的財産法演習ノート 第3版 井原隆 他 著 コロナ社 6,000円 国際法 第2版 新井宏成 他 著 有斐閣 2,800円 現代国際商取引 倉田昭二 他 著 倉田昭二 監訳 吉川英一郎 他 著 2,600円 特集・空異 神谷敏弘 他 著 有斐閣書店 2,500円 特集・性愛 神谷敏弘 他 著 有斐閣書店 2,500円 特集・芸能 田村人 他 著 有斐閣書店 2,500円 民事訴訟法 川島雄三 著 日本評論社 6,000円 生活保護 神谷敏弘 著 神谷敏弘 監訳 野村裕美 他 著 ミネルヴァ書房 2,800円 アメリカが劣化した本当の理由 リン・アッシュトン 著 新潮社 740円 英語ができるのになげ通じないのか 倉田昭二 著 日本経済新聞出版社 1,500円 1からの商品企画 田村重司 他 著 有斐閣 2,400円 伝統産業から文化ビジネスへ 山崎三 著 ミネルヴァ書房 1,600円	2013年10月 図書館購入
---	-----------------------

夫婦格差社会 橋本俊記 他著 中央公論新社 760円	「知」の挑戦…本と新聞の大学Ⅰ 加藤千洋 他著 集英社 740円	「知」の挑戦…本と新聞の大学Ⅱ 加藤千洋 他著 集英社 740円	「慰安婦問題の解決に向けて」 野田八代 他著 白濁社 2,900円	新やさしく学ぶ法学 鹿山教子 他著 法律文化社 2,600円	統計的社会調査 鄭麗軍 著 勉誠出版 3,000円	初年次教育の現状と未来 山田礼子 他著 世界図書社 2,900円	2013年3月図書館購入	ハンサムに生きる 本井康博 著 思文閣出版 1,900円	八重さん、お乗りになりますか 本井康博 著 思文閣出版 1,900円	ミナミ・フロイドニア 庭田茂吉 著 朝倉書店 2,200円	電気電子系学生のための英語処方 馬場弘弘 著 電気学会 2,000円	日本政治史のなかの陸海軍 森清夫 他著 ミネルヴァ書房 6,000円	江戸時代Ⅱ若冲・応挙、みやこの奇想 狩野博幸 他解説 小学館 1,500円	2013年4月図書館購入	租税の複合法的構成 と原裕典 他著 清文社 1,200円	企業活動と刑事規制の国際動向 川崎友巳 他著 信山社 1,140円	近代英米法思想の展開 戒能通弘 著 ミネルヴァ書房 5,500円	これでなっとく使えるスポーツサイエンス 新版 石井好一郎 他編 講談社 2,000円	自然利用と破壊 佐野静代 他著 吉川弘文館 4,800円	絶対役立つ教養の心理学 展開編 井上智美 他著 ミネルヴァ書房 2,800円	ファンタメンタル政治学 増補改訂版 竹本知行 他編著 北橋出版 2,200円	映画で学ぶ国際関係Ⅱ 大矢規昭 他著 法律文化社 2,400円	放射線災害と向き合って 中谷仁一 他著 ライオンハウス出版 2,200円	日本企業の管理会計システム 加藤進 他著 中央経済社 3,400円	日本の金融制度 第3版 鹿野嘉昭 著 東洋経済新報社 4,200円	論点体系 判例憲法Ⅱ 尾形健 松本浩也 他著 第1法規 4,800円	順百首全訳 尾形健 福田昭子 他著 風間書房 9,500円	光源氏とミライタイム 尾形健 著 新典社 800円	2013年日本文学 尾形健 著 新典社 800円	正義とは 岡野一八代 他著 筑波書店 1,500円	災害に向きあう 岡野一八代 他著 筑波書店 1,500円	エッセンシャル政治学 成文堂 2,300円	新時代アメリカ社会を知るための60章 落合明子 他編著 明石書店 2,000円	馬琴の自作批評 神谷陽広 他編 汲古書院 7,000円	憲法cases and materials 人権 第2版 竹中典 松本浩也 尾形健 他著 有斐閣 6,900円	超入門・グローバル経済 浜矩子 著 エクス出版 1,400円	発達心理学事典 井上智美 他著 丸善出版 9,000円	光通信工学 岡田裕之 他著 オーム社 2,600円	憲法から考える実名犯罪報道 浅野健一 他著 現代人名社 1,600円	これから33年、日本と「地球経済」で起きること 浜矩子 著 実業之日本社 1,200円	民族紛争 村大郎 著 岩波書店 800円	生活保障と支援の社会政策 川清 塚崎文子 編著 木崎浩信 山根じつ 山森莞 他著 石書店 4,200円
-------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	--------------	---------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--	--------------	---------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	--	---------------------------------	---	---	------------------------------------	---	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	------------------------------	-----------------------------	------------------------------	---------------------------------	--------------------------	--	--------------------------------	--	-----------------------------------	--------------------------------	------------------------------	---------------------------------------	--	-------------------------	--



어렸을 적부터 일본의 애니메이션과 문학을 접해왔기에 일본이란 나라는 저에게 있어서 아주 가까운 나라였습니다. 그러한 심리적 거리가 가까웠다는 이유도 있었지만 무엇보다도 배우고 싶었던 학문의 영역이 일본에서 조금 더 넓고 깊게 배울 수 있다고 생각했기에 유학을 결정했죠. 현재는 폭넓은 연구를 하고 계시는 교수님들의 지도 속에서 심리학 공부에 힘쓰고 있습니다. 심리학은 정말로 여러 학문과 연관되어있어 배우면 배울수록 통섭이 필요한 학문이라 재차 느끼곤 합니다. 그러한 점에서 넓은 학문의 영역을 마음껏 배울 수 있는 도시샤 대학은 제 좋은 배움터라 생각해요. 도시샤 대학에서 1년 남짓 지내는 동안 깨달은 점은 학생들이 참가할 수 있는 여러 매력적인 활동이 많다는 부분이에요. 저는 현재 그러한 활동 중에서 학교 축제를 기획하는 위원회의 일원으로서 열심히 노력하고 있습니다. 어떠한 축제가 될 지 무척 기대가 되네요.

제가 도시샤의 학생들에게 전하고 싶은 말은 ‘대학생활은 바쁘게!’예요. 무슨 일을 하던 발이 닳도록 경험을 쌓으면 어느 샌가 시야가 넓어진 자신을 발견할 수 있기 때문이죠.

이 다혜
(한국 출신)

幼い頃から日本のアニメーションや文学を好んでいたため、私にとって日本という国は身近な存在でした。そういう心理的な距離が近かったこともありましたが、なによりも学びたいと思った学問分野を日本でより専門的に学べると考えたため、留学を決心したのです。現在は、幅広い研究を行っている様々な先生の指導の下で心理学の勉学に励んでいます。心理学は他の学問と非常に密接な関わりを持っているため、学べば学ぶほど、学際的な勉学が必要だと強く感じます。そのため、様々な学問を一杯学ぶことができる同志社大学は私にとって良き学びの場です。同志社大学で1年間を過ごす中で気づいたのは、学生が参加できる魅力的な活動が非常に多いということです。中でも、私は今、同志社クローバー祭を企画する委員会の一員として頑張っており、どの様な祭になるのか楽しみです。

私が同志社の学生の皆さんに伝えたい言葉は「大学生活は忙しく!」です。何事も頑張って経験を積み重ねていくと、いつの間にか視野が広がっている自分に気づかされるからです。

李 다희

2012.4 ~ 心理学部に在学 (韓国出身)

坂田 好弘さんに聞く

インタビュー
富吉 佐季 さん
スポーツ健康科学部 4年次生



富吉 ● 昨年、国際ラグビーボードの「ラグビー殿堂」入りを、日本人で初めて果たされました。すごい方だと伺っていましたが、実際に会って、私が知っているラグビー選手と比べるとかなり小柄でいらっしゃるのに驚きました。

坂田 ● 今の学生たちは大きいですが、われわれの頃はそんなに大きい選手はいなかったですね。私自身168センチで、大学時代は4年間69キロでした。今ならば中学生くらいの体格です。1968年にニュージーランドへ遠征した時の日本代表メンバー15人も、平均身長172センチ、体重は72.5キロです。そんなチームが、ラグビーが国技のニュージーランドのオールブラックスジュニアに勝ったのです。体の大きさだけではない、勝つための何かがあったのだと思いますね。

富吉 ● それは何だったのでしょうか。

坂田 ● 個人技があり、個性のある選手が揃っていました。当時の監督は選手を見る目を持っていましたから、優秀な選手を見つけてきてチームを作り、選手に合った戦術を研究して戦いました。ニュージーランドの選手が知らないような技を繰り出して、相手を混乱させるようなことをゲーム中にやっていました。

富吉 ● ラグビーを始めたのは高校に入ってからだとか。

坂田 ● 京都の洛北高校の合格発表日にグ

今回の同志社人

坂田 好弘 さん【1965年 経済学部卒業】

1942年生まれ、大阪府出身。同志社大学在学中の1963年、全日本のメンバーに初選出され、大学時代に2度全国制覇。社会人では4度日本選手権優勝。1968年、全日本のニュージーランド(NZ)遠征メンバーに選ばれ、オールブラックス・ジュニア(23歳以下代表)相手に4トライを挙げ、勝利に貢献。翌年、単身NZに留学し、カンタベリー州代表やNZ学生選抜などに選出。1975年、日本選手権の対早大戦を最後に現役引退。日本代表キャップは16。1977年、大阪体育大学の教員となり、ラグビー部監督にも就任(今年3月に退官とともに退任)。昨年6月には、国際ラグビーボード(IRB)が定める“1960年代の世界で最も優れたラグビー選手”として、日本人選手で初めて「国際ラグビー殿堂」入りを果たした。今年5月「心で見える一日本ラグビーが生んだ世界的ウイングの指導哲学」(ベースボールマガジン社)を上梓した。

ラウンドへ行ったら、ラグビー部が練習していたのです。その時に初めてラグビーを見て、面白そうだと思ったのが最初です。もしその日にラグビー部が練習をしていなかったら、中学時代に柔道をしていただそのまま柔道部に入っていたと思いますね。そして、入部して2週間後同志社大学の二軍との試合に出場しました。ルールもまだわからず「何をすればいいんですか」と先生に聞いたら、「ボールを持ったら走れ」「ボールを持っている人がいたら倒せ」と。この2つだけ教えてくれました。ラグビーは簡単なものだと思います。なぜですか。

富吉 ● 同志社大学に入学したのはなぜで

1968年、日本代表はニュージーランドに遠征し、オールブラックス・ジュニアに勝利した。坂田さんはこの試合で4トライをあげた。



坂田●日本にいとラグビーはこんなものだという固定観念を抱きがちですが、外国に行けば、こういう方法もあると新しい発想が生まれます。違うことを知ってまた日本のことを考えられるようになる。その意味で、外国で多くのことを知る意義は大きいと思います。在学生の皆さんも、4年間のうちに半年でも1人でどこかへ行けば、戻ってきてからまた違った感覚で勉強できると思いますね。

富吉●私は体調と理想の指導者像を卒業研究のテーマにしているのですが、坂田さんは指導者の体調についてどう思われますか。

坂田●私は36年間体育大学で監督を務め

間にしていいかテストをして「いた」と言うのです。ボールをもらえない時にどういう態度をとるか、どういうプレーをするか。お前は一生懸命タックルに行った。だから本当の仲間にしていいと思った」と。大事なのは試されている時にどうするかです。逃げるのか、新しい道を見つけるのか。私はボールがこないとき、自分は日本人だ、日本人として負けてたまるか、と強く思っていましたね。

富吉●世界を見て役に立ったことはあります。

坂田●日本にいとラグビーはこんなものだという固定観念を抱きがちですが、外国に行けば、こういう方法もあると新しい発想が生まれます。違うことを知ってまた日本のことを考えられるようになる。その意味で、外国で多くのことを知る意義は大きいと思います。在学生の皆さんも、4年間のうちに半年でも1人でどこかへ行けば、戻ってきてからまた違った感覚で勉強できると思いますね。

富吉●私は体調と理想の指導者像を卒業研究のテーマにしているのですが、坂田さんは指導者の体調についてどう思われますか。

坂田●私は36年間体育大学で監督を務め

坂田●洛北高校から多くの先輩が同志社大学に進んでいましたし、兄や姉が同志社に通っていたこともあり、それ以外は考えられませんでした。大学でも迷わずにラグビー部に入学したところ、1年目にその後の私のラグビー人生を大きく変える出来事がありました。当時の監督の岡仁詩先生から「まっすぐ走れ」と言われたのです。しかし、ラグビーは倒そうとする相手をおかしながら走って、止められたら味方にボールをつなぐ競技。ですから、「まっすぐ走れ」という意味がわからなかった。そこで、どうしたらまっすぐ走れるのかを真剣に考えました。まっすぐ走るといのは最短

距離を走るといことです。当たり前、かわし方を工夫して、効率のいい走り方をする。それを考えて繰り返し練習しているうちに、ボールを受ける時、1歩内側へ踏み込んで止まり、次の瞬間外へ踏み出す「インアンドアウト」というプレーを編み出しました。それをもっと進歩させたのが「クロス・ステップ」です。「まっすぐ走れ」という岡監督の言葉を本気で捉え、実行しようとするか、しないか。その違いはとても大きかったでしょうね。言葉の深い意味を感じられるかどうか、その感受性は、この世界でも非常に大事だと思います。

富吉●大学卒業後、株式会社近畿日本鉄



ましたが、体調は1度もしたことがありません。これは個人的な意見ですが、体調をする指導者というのは、指導者自身が試合をしている気になるのです。自分が勝ちたい、でも勝てないから選手に体調をするのです。選手を預かり、持っている力を引き出してやるのが監督です。そのチームを勝たせるために存在するものですから、負けて選手を怒るといのはおかしい。負け

たれば、監督の責任なのです。主役はあくまで選手。そういう謙虚さを持つていけば、体調は起こるはずがありません。

富吉●指導者として、選手にラグビーだけ

富吉●最後に、学生たちにメッセージをお願いします。

坂田●大学時代のメンバーはみんな、坂田は練習嫌いだと思っっているはず。練習を終えて、大半の選手は個人の練習をするのですが、私にはそれをするエネルギーは残っていませんでした。練習ではどんなプレーにも100%の力を出し切り、力を残さないで練習を終えるというのが私のスタイルでした。だから、学生には大学時代の4年間、何か1つのことに全力で取り組んでほしい。徹底してやれば色々なことが見えてきます。音楽を聴いて感動する、絵を見て心が動かされる、そういう感受性も持てると思いますよ。

富吉●来年から社会人になる私にとって、も、とても心に残るお話を伺うことができました。どうもありがとうございました。



道(近鉄)に入社されたんですね。

坂田●大学の1年次と3年次で日本一になり、力を出し切ったので、実はもうラグビーはやめようと思っていたのです。どこか小さな町で、子どもたちにラグビーの楽しさを教えることが私の夢でした。しかし近鉄から熱心に誘っていただいたので、と

りあえずラグビーを続けながら、仕事に重点をおいて頑張ろうと思いました。近鉄では、ラグビー選手であっても、1年半の間に運転手や車掌、改札の係員を経験しました。

坂田●人生が変わるといって大げさかも

富吉●でも結局、近鉄で「世界のサカタ」と称される選手になりました。1968年にニュージーランドへ遠征したあと、翌年に1人で留学されていますが、向こうでの生活はいかがでしたか。

坂田●私が選手たちによく言ったのは、ベター・サン・イェスターデー、昨日よりも進歩しようということ。そして、尊敬される人間になれということです。尊敬されるには、信頼されなければならぬ。信頼される選手というのは何事においてもベストを尽くす選手です。グラウンドだけでなく、プライベートでもベストを尽くす。このことを選手が出来るようになったらチームは変わります。

富吉●最後に、学生たちにメッセージをお願いします。

坂田●大学時代のメンバーはみんな、坂田は練習嫌いだと思っっているはず。練習を終えて、大半の選手は個人の練習をするのですが、私にはそれをするエネルギーは残っていませんでした。練習ではどんなプレーにも100%の力を出し切り、力を残さないで練習を終えるというのが私のスタイルでした。だから、学生には大学時代の4年間、何か1つのことに全力で取り組んでほしい。徹底してやれば色々なことが見えてきます。音楽を聴いて感動する、絵を見て心が動かされる、そういう感受性も持てると思いますよ。

富吉●来年から社会人になる私にとって、も、とても心に残るお話を伺うことができました。どうもありがとうございました。

INTERVIEWER

与えられた言葉を自分のものとして考えることが成長につながる。

1つのことに徹底して取り組むことが大事とおっしゃっていましたが、私も4年間マネージャーを続けてきて、自分のこともより分かるようになり、人のこともよく見えるようになったと思います。坂田さんの時代の選手たちが監督に「こうなさい」と指示されて行動したわけではなく、「自分の強みはここ」というものを見つけて磨いていったように、自分で考えて行動することが大切なのだと教えられました。指導者からせつ々しい言葉をかけてもらっても、それについて自分で考えることをしなければ、その言葉は聞かなかつたのと同じです。また、坂田さんはラグビー選手でもスポーツ選手でもない人の言葉を心に留めて咀嚼し、自分の中でラグビーに当てはめたらこうだというものを見つけていかれました。一見すると自分には関係のない分野の人の言葉でも、自分に置き換えて考えることが自分の成長、スキルアップにつながっていく。その考え方は、卒業後の社会人生活でも大事にしていきたいと思います。

富吉 佐季さん

スポーツ健康科学部 4年次生

同志社中・高出身。高校時代に硬式野球部のマネージャーをした経験からスポーツを学びたいと思い、スポーツ健康科学部を選択。大学でも体育会硬式野球部のマネージャーを4年間務める。スポーツ心理学のゼミに所属し、体調に対する大学生の認識と理想の指導者像をテーマに調査研究。来春にはスポーツ用品メーカーで社会人としてのスタートを切る予定。

このシリーズは、毎号様々な分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。
級友の方々にとっては良き近況報告、学生の皆さんには将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

選手経験を強みに、アスリートの価値を高めるために働く。

アマチュアの選手も含めて、アスリートのマネジメントをするのが私の仕事です。メジャーリーグで活躍しているレッドソックスの上原浩治選手や、一線は退いていますが、水泳連盟理事を務めている水泳の萩原智子さんといった人たちが、現在の私のクライアントです。上原選手の場合、球団と契約を結ぶ際に関わるのは代理人ですが、私はスポーツメーカーなどのスポンサーとの契約交渉、各種のメディアへの対応などをトータルにサポートしています。個々のアスリートに競技以外の部分でどのような価値をつけて、世の中にアピールしていくか、アスリートをサポートして彼ら自身が望む方向へどうやって進めていくか。アスリートにとっては秘書であり、ブレーンであり、また営業担当でもあります。

高校時代に夏の甲子園で準優勝し、その実績が評価されて同志社大学に入学。大学では硬式野球部の副キャプテンを務め、3年次に関西学生野球リーグのベストナインに選ばれました。プロを目指していましたが、卒業後は社会人野球に進み、4年間は懸命に夢を追いかけていました。しかしドラフトにかかるような成績を残せなかったこともあり、プロの道を断念し、ユニホー

ムをスーツに、スパイクをビジネスシューズに履き替えたのが26歳の時でした。

とはいえ、プロ野球選手の夢がかなわなかった場合のこともしっかりと想定していたので、次の道にも躊躇せずに希望をもって進むことができました。きっかけは中学生の時に『ザ・エージェンツ』という映画を観て、スポーツ・エージェンツという仕事があると知ったことです。同志社大学で産業関係学を専攻したのも、仕事論を学べるのが理由でした。授業では一般企業で活躍する先輩方に実社会の話を直接聞くことができましたし、レポート課題が多く非常に苦勞しましたが、考えを簡潔に、正確に伝えるようにまとめる手法を学べたことが今はとても役に立っています。学生の皆さん、特に私と同じように体育会に所属している学生には、ただ授業に出席するだけではなく、しっかりと身につく勉強をしてほしいですね。それが本当の文武両道だと思いますから。

クライアントであるアスリートのためにもっと出来ることがあるのではないかという思いが募り、7月に独立しました。また自分自身のキャパシティを上げるために、今年の春から大学院でスポーツ社会学の

勉強を始めています。今後はアスリートのための活動はもちろんです。スポーツマネジメントの世界で働く人物を育てたいと思います。世界で活躍する日本人アスリートは多いですが、彼らを裏で支える人材がもっと必要です。そして、スポーツが持つ魅力を最大に引き出し、競技をより普及させるためにも、スポーツビジネスをしっかりと確立させたいと考えています。

澤井 芳信さん

【2003年 文学部社会科学科産業関係学専攻卒業】
株式会社Sports Backs 代表取締役

1998年、夏の甲子園大会決勝、松坂大輔の横浜高にノーヒットノーランで敗れた京都成章高校のキャプテン、いわゆる“松坂世代”の1人だ。「上原選手に同行してアメリカに渡った際、メジャーの球場で松坂が投げているのを見た時は、高校時代のことを思い出して感慨深いものがありました」。社会人野球では、新日鉄君津硬式野球部へ（入部後、地域型のチーム「かずさマジック【現 新日鉄住金かずさマジック】」にチーム名が変わる）、プロではないものの、常に結果を求められる厳しい世界で、社会人野球の4年間は野球人生の中で最も辛い時代だったという。「選手経験も大きいですが、今の仕事に直接生きているのは大学時代の勉強。真剣に取り組んでおいて良かったと思うことが多くあります」と話してくれた。

環境分野において、国際的な議論の場で貢献できる人材になりたい。

現在、富士通グループ全体の環境に関する業務を統括する環境本部に所属しています。企業が自らの環境負荷を減らすには、設備や技術開発といった投資が必要になるため、それだけでは疲弊してしまいます。そこで、環境活動を推進することが企業のベネフィットにもつながり、成長をも促すような取り組みが必要です。環境課題を解決しつつ、利益も生み出して、双方にとって「Win-Win」の関係になるようなビジネスを提案することが、当部署の仕事です。

具体的には、富士通の社員が社会貢献活動の1つとしてボランティアでお手伝いをしているワインファームのモニタリングシステムです。品質の優れたブドウを栽培するには、温度や湿度の精緻なモニタリングが必要です。これまでは一般的に、長年の勘や手作業による気温データの集計と分析で栽培していたのですが、富士通のシステムを導入すれば、農園の気温データを24時間、一定の間隔で集めて分析することができます。すると、カビや病害、害虫の発生などを事前に予測して防ぐことができるため、それまで予知できないがため

に、使わざるを得なかった農業を使う必要がなくなりました。コストも農業も削減することができたのです。まさにこれが、私たちが目指しているビジネスの1つの形です。

もともと、環境問題を巡る利害関係の複雑さ、政治的議論に関心があり、大学では政治学を専攻しました。卒業後、ベルギーのルーヴエン大学院で学び、現地でトヨタモーターヨーロッパに就職。新車開発部の管理部門に所属し、日本とベルギーの調整役と、部署横断的なプロジェクトの管理を担当しました。その後、コンサルティング会社のユーロビジョン&アソシエイツへ転職。主にEUの自動車や新エネルギー、環境政策のコンサルティングを担当しました。

どちらの仕事もやりがいがあり楽しかったのですが、当初からあった「世界の環境問題に関する議論に関わる当事者になりたい」という気持ちがずっと残っていました。特に、積極的に国際議論にかかわっている、日本の代表的なICT（情報通信技術）企業である富士通に惹かれ、運よく転職が叶い帰国するに至ったのです。環境分野の議論は、政府、企業、大学、N

FUJITSU

shaping
solutions
with you

井岡 紘子さん

【2004年 法学部政治学科卒業】
株式会社富士通 環境本部
グリーンビジネスイノベーション統括部

ベルギーで知り合ったベルギー人の夫と長女と3人で、8年ぶりに日本へ。来年1月には第2子を出産予定だが、3カ月で職場復帰する予定だという。順風満帆にステップアップしてきたように見える井岡さんだが、トヨタモーターヨーロッパでは、昇進試験に失敗。「落ち込んでいたら、先輩に『よかったじゃない。それって別のチャンスの扉があるということよ』と言われたんです。その言葉をきっかけに、転職してコンサル会社へ。悶々としていても何も始まらない。結局、飛び込むしかないんですね」。産休を利用して、日本で転職活動をしたのも、同じ先輩のアドバイスだったという。「背中を押してくれる人が身近にいたことが、ラッキーだと思います。何か不安があっても、行動すること。行動すれば、意外と何とかなるものです」。その言葉は後に続く後輩に頼もしく響く。

ANNOUNCEMENT

各詳細は、学内掲示板や HP などでご確認ください。



同志社創立138周年記念リユニオン 同志社大学ホームカミングデー2013

卒業生の皆さまを思い出のあるキャンパスにお迎えし、「精神に帰る一日」を母校で過ごしていただくとともに、懐かしい友人や教員と旧交を温めながら、同志社大学の「今」を感じていただく1日にと考えております。ホームカミングデーならびにリユニオンを下記のとおり開催いたしますので、是非とも足をお運びください。

【日時】11月10日(日) 10:00～16:30

【会場】今出川校地

*開会式

【時間】10:00～10:45

【会場】同志社女子大学 栄光館

*交流レセプション

【時間】12:30～13:45

【会場】寒梅館1階特設会場

【会費】2,000円

詳しくはホームカミングデーHPまで

<http://www.doshisha-koyu.net/index.html>

【お問い合わせ先】校友・父母課 TEL: 075-251-3009

E-mail: ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

同志社大学キャンパスフェスタ

在学生・父母・高校生などを対象に、大学の近況報告(大学長)、講演会などのプログラムをご用意いたします。

開催日	開催地	会場	講師／演題
10月5日(土)	東京	秋葉原UDX	●佐伯 順子 (社会学部教授) 新島八重と明治女性たち～ハンサムに生きる ●上田 慧 (商学部教授) 多国籍企業の世界ー企業は地球市民たうるかー *東京新島講座と共催
10月12日(土)	大分	トキ八会館	●本井 康博 氏 (神学部元教授) 八重の桜-裏の梅---大河ドラマのウラオモテ---
11月4日 (月・祝)	高知	ザ・クラウンパレス 新阪急高知	●本井 康博 氏 (神学部元教授) 八重の桜-裏の梅---大河ドラマのウラオモテ---
11月17日(日)	秋田	パーティーギャラリー イヤタカ	●佐伯 順子 (社会学部教授) 「八重の桜」が描く「女子力」～ドラマが社会に問うもの
11月24日(日)	山口	ホテルニュータナカ	●露口 卓也 (文学部教授) 八重と覚馬

プログラム等の詳しい詳細は、HPでご確認ください。

http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/c_festa.html

【お問い合わせ先】校友・父母課 TEL: 075-251-3009

E-mail: ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

同志社クローバー祭(同志社京田辺祭)

11月3日・4日の2日間、同志社クローバー祭(同志社京田辺祭)を開催します。昨年までの大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成という観点はそのままに、そこに学生の皆さんに多く参加していただくことで例年以上の活気あふれるお祭を目指しています。期間中は、アーティストライブ(無料)・模擬店・きつぱれっと・アカデミック体験コーナーなどがお祭を盛り上げます。また、東日本大震災の復興支援として、福島県の物産展なども出店しますので、是非、京田辺キャンパスにお越しいただき、お祭のにぎわいを感じてください。

【日時】11月3日(日)・4日(月・祝) 【場所】京田辺キャンパス

【お問い合わせ先】クローバー祭実行スタッフ TEL:0774-65-7832

第138回同志社EVE

同志社創立138周年を記念して、今年も今出川校地を中心に同志社EVEが開催されます。日頃の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術をアピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として、講演会や演劇、演奏会などが華々しく開催されます。

【日程】EVE期間 11月1日(金)～28日(木)

出店期間 11月26日(火)～28日(木)

【場所】今出川校地

【お問い合わせ先】第138回全学EVE実行委員会 TEL: 075-251-4452



WOT(ワット)＝“What’s On Thursdays!”

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●10月3日(木) 映画上映

10:30『浪華悲歌』

1936年/72分/監督:溝口健二/出演:山田五十鈴

13:00『稲妻』

1952年/87分/監督:成瀬巳喜男/出演:高峰秀子

16:30『愛の讃歌』

1967年/94分/監督:山田洋次/出演:倍賞千恵子

18:30『華岡青洲の妻』

1967年/99分/監督:増村保造/出演:若尾文子

料金:500円均一(各回入替制)

●10月10日(木)

《大友良英 &「あまちゃん」スペシャルビッグバンドコンサート京都公演》
18:30～/前売3,500円、当日4,000円(全席指定)

●10月17日(木) 映画上映

マイケル・チミノ監督『天国の門』デジタル修復完全版 特別先行上映

17:00～/一般2,000円、Hardience会員・他大学生・シニア1,700円

●10月31日(木) 映画上映

《ジャン＝クロード・ルソー監督レトロスペクティブ》

監督作品上映と監督によるトーク *詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL: 075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。※11月以降も毎週木曜日、映画上映などの催しを予定しています。詳細はお問合せください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアタークローバーホールでは、映画史に残る名作の上映を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●10月1日(火) 映画上映《世界の巨匠と俳優たち①》

17:00『散り行く花』D・W・グリフィス監督/1919年/アメリカ/74分

18:30『道』フェデリコフェリーニ監督/1954年/イタリア/104分

*入場無料

●10月8日(火) 映画上映《世界の巨匠と俳優たち②》

17:00『ストロンボリ』ロベルト・ロッセリーニ監督/1949年/イタリア/99分

18:50『赤い砂漠』ミケランジェロアントニオニ監督/1964年/イタリア/113分

*入場無料

●10月15日(火) 映画上映《世界の巨匠と俳優たち③》

16:30『ルートヴィヒ』復元完全版/ルキノ・ヴィスコンティ監督/1972年/237分

*途中休憩あり *入場無料

●10月22日(火) 映画上映《西部開拓史》

16:30『アイアン・ホース』ジョン・フォード監督/1924年/アメリカ/118分

18:45『幌馬車』ジョン・フォード監督/1950年/アメリカ/85分

*入場無料

●10月29日(火) 《ジャン＝クロード・ルソー監督レトロスペクティブ》
*詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL: 075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。※11月以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。



bふらっとプログラム

【会場】京田辺校地ハローホール 【料金】無料

●10月16日(水) 映画上映「未定」

●12月4日(水) パフォーマー「星丸」

●12月19日(木) 映画上映「未定」

※内容・時間は決まり次第HP等でお知らせしますのでご確認ください。

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL: 0774-65-7413

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体10月～11月の活動予定—

【学内】

●10月7日(月) ブロレス同盟「田辺興行」
京田辺多目的ホール 12:10(12:00) 無料

●10月12日(土) 自主制作映画サークルF.B.I.
「同志社F.B.I&立命館NTKS合同映画上映会」
寒梅館クローバーホール 12:30～18:00(12:00) 無料

●10月20日(日) ピアノ研究会「京大合同コンサート」
寒梅館ハーディーホール 15:00～(14:30) 無料

●10月28日(月) 学生保健部会「献血」 ラーネッド記念図書館裏(予定)

●10月29日(火) 学生保健部会「献血」 明徳館西側(予定)

●11月3日(日・祝) ギタークラブ「第53回定期演奏会」
寒梅館ハーディーホール 17:00～(16:30) 無料

●11月6日(水) 学生保健部会「歯科検診」
紫苑館2階スペースプラザ(予定)

●11月7日(木)・8日(金) 学生保健部会「歯科検診」
明徳館地下ラウンジ(予定)

【学外】

●10月12日(土)【予備日13日(日)】
応援団 平成25年度秋季同立戦前夜祭
京都市役所前広場 開演15:00～(14:30) 無料

●10月26日(土) 能楽部金剛会「紅葉会」
河村能舞台 13:00～ 無料

●11月29日(金) マンドリンクラブ
「同志社大学マンドリンクラブ第163回定期演奏会」
京都府長岡京記念文化会館 19:00(18:30) 500円

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金等は変更されることがあります。

【アーチェリー部】

●10月5日(土)～7日(月) 第68回国民体育大会・アーチェリー競技
会場:東京都三鷹市

●10月6日(日) 第51回関西学生アーチェリー新人戦

会場:服部緑地陸上競技場

●10月25日(金)～27日(日) 第55回全日本ターゲット選手権大会

会場:静岡県つま恋

●11月3日(日・祝) 9:00～ 立教大学定期戦

会場:同志社大学アーチェリーレンジ 対戦相手:立教大学

●11月10日(日) 10:00～ オール同志社

会場:同志社大学アーチェリーレンジ

対戦相手:同志社高等学校、同志社女子高等学校

●11月17日(日) 10:00～ 立命館大学定期戦

会場:同志社大学アーチェリーレンジ 対戦相手:立命館大学

北京大学の中国語スピーチコンテストで第3位入賞

自分にチャンスときっかけをくれた中国に恩返しをしたい

中国語に興味を持ったのは、高校生の時に新聞などで経済成長の著しい国として中国のことを目にする機会が増え、その可能性の大ききから今後は中国に特化した人材が求められるのではないかと考えたことがきっかけでした。大学進学時にちょうどグローバル・コミュニケーション学部が開設されたため、1期生として入学しました。

中国語コースでは2年次から3年次にかけてスタディ・アブロード留学が必修です。私が選んだのは北京大学。昨年8月から今年7月までの1年間、大学内のグローバルレジジという宿舎に住み、半年間は中国語、残りの半年は中国文学について学びながら、空いた時間には経営マネジメントの授業の聴講もしていました。日本で学んでいた中国の姿を現実体験することに胸を躍らせていた私は、語学力を高めるためにも、留学中は積極的に行動するよう心がけました。そのような毎日を送っていた昨年12月に行われたのが、北京大学に留学している世界各地の学生約600人による中国語のスピーチコンテストです。まず30のクラスで予選があり、各クラス代表一人ずつが、初級・中級・高級コースに分かれて決勝へ進みます。私は日本人では唯一、高級コースで代表になり、決勝では6分間の暗唱スピーチを行いました。

内容は中国で得た友人との交流を通して学んだ「勇気を出して行動し道を拓くことの大切さ」と「中国と日本と国は違っても、感じる心、友情に国境はない」というものです。私は長年バスケットボールを続けてきたので、北京でもスポーツを通じて中国人と交流したいと思いました。しかし、プ

レーしているのは男子ばかり。外国人で、さらに女子のプレイヤーはほとんどおらず、しばらくは羨ましい気持ちで眺めていました。ある日、勇気を出して声をかけたところ、

彼らは驚くほど快く仲間に入れてくれたのです。それをきっかけに、どんどん友人の輪が広がっていき、苦楽を共に分かち合える大切な友人もできました。そのような日常での体験を話したところ、決勝で第3位に選ばれたのです。北京大学は中国でトップの大学ですから、留学生も各国のトップクラスの大学から来ています。表彰式では中国メディアも撮影に入っており、その中で認めていただいたことは、私にとって大きな自信となりました。

その後も、より多くの人に日中相互理解をしてもらうために、現地地私ができることは何かと考え、北京市のイベントなどで中国語での司会活動を行いました。

中国から帰ってきて、ビジネスや観光などすべての基本はお金の仕組みだと思い、日本と中国どちらでも通用する人材を目指して、金融の勉強を始めました。中国は、私にチャンスときっかけを与えてくれた国です。日本で基礎を学んだあと、いつかまた中国に渡り、今後重要度が増していくと考えられている保険と医療の分野でビジネスに関わり、中国に恩返しをしたいと考えています。



昨年12月に行われた中国語のスピーチコンテスト表彰式。右から5番目が後藤さん。



後藤 友莉さん
【グローバル・コミュニケーション学部
中国語コース3年次生】